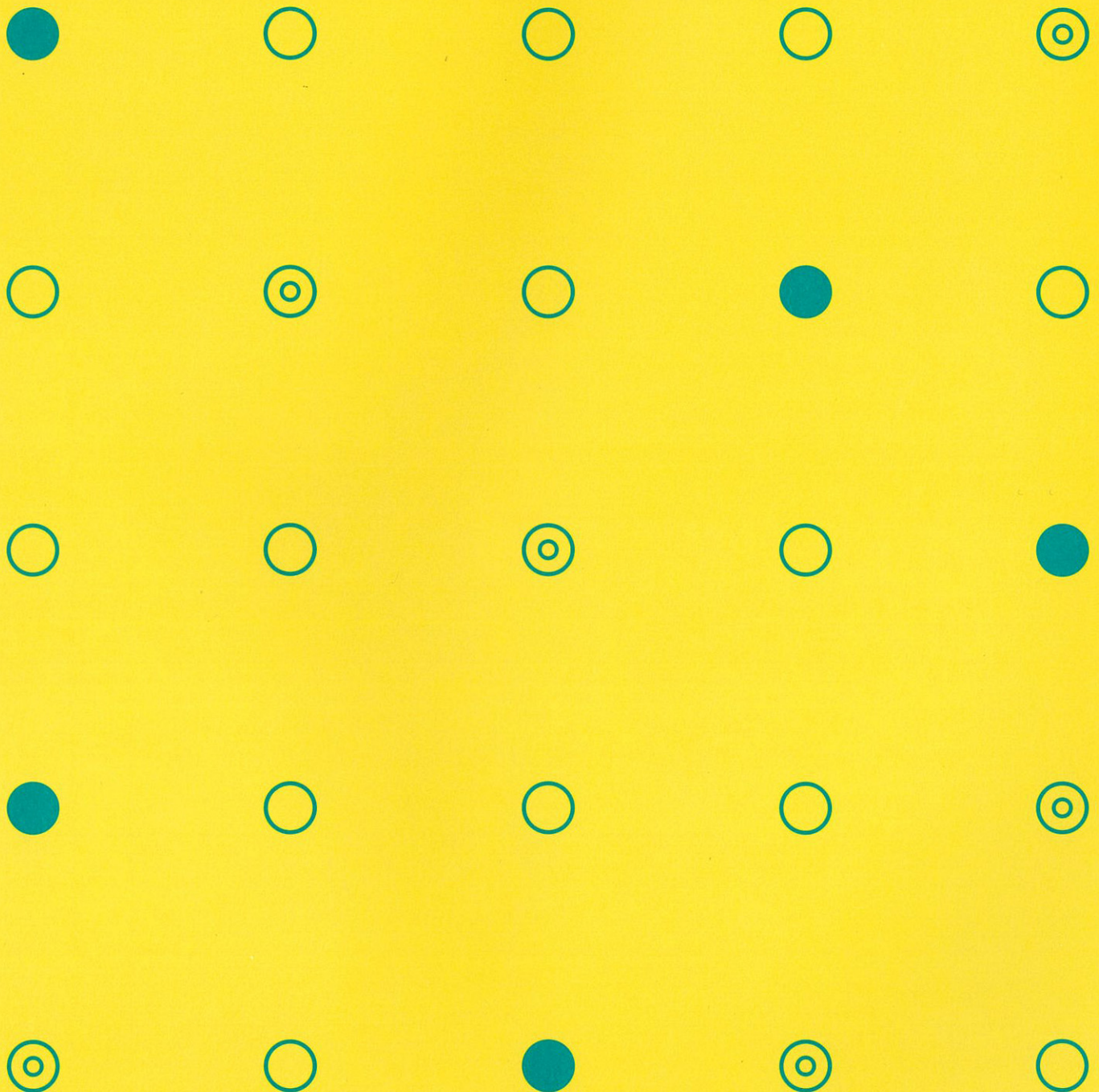


# THE SAISON FOUNDATION

ANNUAL REPORT 2005 April 2005 to March 2006



## ごあいさつ

今の憲法の前文には「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」という表現がある。

現在の国際社会が、「圧迫と偏狭」を除去しようと努めているかどうかについてはたくさんの議論があるだろうが、わが国の場合、経済的にはこの憲法の下で大いに成功をおさめて来た。しかし、そのことによって「国際社会において、名誉ある地位」を持つことができただろうか。

ここには、わが国の文化、芸術の問題が大きく関係していると思う。

かつて、わが国は文化、芸術の大国であった。独創性に富み、諸外国の芸術に強い影響を与えることができた。しかし明治以後、わが国は、一時は軍事大国であり、この四十年間は経済大国と考えられているけれども、文化芸術はどこへ行ってしまったのだろう。

昨今、「国家の品格」というようなことがしきりに論議され、こうした問題を扱った著書がベストセラーになったりしているのは、人々がようやく経済的価値以外の価値の、人間にとってのひいては国にとっての重要性に気付いてきたからかもしれない。

そこで私どもはどんな活動を展開したらいいのか。身最肩かもしれないけれども、直接財団に関係している人々の情熱と専門度はどんな同種の組織と比較しても、そんなに遜色はないと思う。もし欠陥があるとすれば、全体の方向を明示し、活動を支える

財政的な面を厚くする活動が充分ではなかったのではないかと私は反省している。また、助成させていただいた個人や集団のその後の活動の質がどう展開しているかについての、いわゆるフォローアップについても、充分だったかどうかは大いに議論が出るところかもしれない。

また話はかわるが私は今年になって二度中国に行き、中国からの文化活動指導者の訪問も受け、隣国が経済の躍進を背景に新しい文化芸術についての関心を高めている気配も私は直接感じることができた。中国ばかりでなく、他のアジア諸国からも私たち財団の知識と経験を参考にしたいという希望は少しずつ高まっているように思われる。そのような環境の中で、私たちは限りある力をどのように使っていったらいいのか。

今年はいくつかの新しい計画も少しずつ固まってきているので、理事、評議員の方々をはじめ財団を取巻くたくさんの有識者、文化芸術面での指導者の御知恵もいただいて、確実な前進をしていきたいと考えている。また、今までメセナ活動に協力をいただいたセゾン系の企業の皆様にも、大きな感謝とともに、より一層のサポートをお願いしたいと思っている。

2006 年 10 月

財団法人セゾン文化財団  
理事長 堤 清二

## Preface

In the preface of the present Constitution of Japan there is the following manifestation:

We desire to occupy an honored place in an international society striving for the preservation of peace, and the banishment of tyranny and slavery, oppression and intolerance for all time from the earth.

While there may be a great deal of discussion whether today's international society has been working hard enough to banish "oppression and intolerance," Japan has achieved enormous economic success under this constitution. But have we occupied "an honored place in an international society" through such success?

I feel this is an issue that is deeply related to the arts and culture of our country.

In the past, Japan used to be a great country of arts and of culture. It was affluent in originality, and made a tremendous influence upon the arts of many other countries. Ever since the Meiji era (1868-1912), however, our country became a military power at one point and during the past four decades it has been regarded as an economic power – but where have our arts and culture gone?

The fact that one of the most repeatedly discussed issues nowadays in Japan is about "the dignity of a nation," and that a book on this particular subject has become a best seller perhaps indicate that people here are finally becoming aware of values of such as those apart from economic ones and their significance to human beings.

What kind of actions should we at The Saison Foundation take in response to these developments then? This may sound a bit nepotistic but I feel that the enthusiasm and expertise of those directly involved in our foundation are in no way inferior

to those working in any other organization of the same kind. If flaws may exist, the fault should be mine as they probably lie in the insufficiency in specifying the general direction of which the foundation should take and in the deficiency of actions to improve the financial aspects that are necessary to support the foundation's activities. Moreover, the question of whether the process of reviewing the quality and further development of the activities by our former grant/award-receiving individuals and companies has been conducted adequately or not is also perhaps open to further discussion.

Meanwhile, I visited China twice this year and also received visits from Chinese cultural leaders, through which I became aware of at first hand the signs of increasing interest backed by the remarkable economic progress towards new culture and arts in our neighbor. It also seems to me that the number of inquiries to our foundation from China as well as from other countries in Asia seeking advice based upon our expertise and experience are gradually increasing. I am thinking how our foundation should use its limited strength to respond to this situation.

Furthermore, we have some new plans that are gradually becoming firm this year, and I would like to kindly ask guidance from our board of directors and trustees and also from experts and leaders in the arts and culture so that we may make steady progress. Additionally, I wish to ask further support from the Saison-affiliated corporations, who have provided assistance to our philanthropic activities in the past and to which we have been truly grateful over the years.

October 2006

Seiji Tsutsumi  
President, The Saison Foundation

## 2005 年度事業概要

### ■ 助成事業

## I 国内プログラム

### I-1. 現代演劇・舞踊助成——創造環境整備

#### ワークショップ、会議、シンポジウム等

演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流など芸術創造を支える環境の整備を目的とした助成プログラム。ワークショップ、会議、シンポジウム等の企画に対し、企画経費の一部を助成(2005年度実績:30万円～150万円)し、希望者には会場として森下スタジオを提供する(スタジオ提供のみの場合あり)。原則として同一テーマ/企画の継続助成は3年間で限度とする。現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その解決方法を具体的に提案する次の事業を重視する。

- ・ 演出家、俳優、振付家、ダンサー、制作者、技術スタッフ等の技術向上を目的とした経験者対象の人材育成プログラム
- ・ 劇場等による人材発掘・育成企画
- ・ 芸術支援を巡る議論が活発化することを目的とした政策提言や、その基礎となるべき系統だった調査・研究
- ・ 情報交流の場の提供、情報公開を推進するシステムの整備などを目的とした会議、シンポジウムなど

#### アーツマネジメント留学・研修

国際的視野をもつアーツマネジャーの養成を目的とした海外への留学・研修に対し、100万円を上限として留学資金の一部を助成する。対象は下記のすべての条件を満たしている者とする。

- ・ 演劇・舞踊関連の芸術経営/運営の専門家として3年以上の職歴があること
- ・ 海外の専門教育機関への留学、あるいは劇場・芸術団体への3カ月以上の研修が内定していること
- ・ 帰国後に留学の成果を活かし、国内の演劇・舞踊の振興に寄与する意欲と長期的展望を有すること

#### サバティカル(休暇・充電)

日本を拠点に活動する演出、振付、劇作、批評、プロデュースの専門家として5年以上の活動歴を有し、1カ月以上の海外渡航を希望する個人に対し、100万円を上限に、渡航費用の一部に対し助成金を交付。

- ・ 特に、申請時点までに継続的に作品を発表・制作し、一定の評価を受けているアーティストやプロデューサー(制作者)で、2005年度中にサバティカル(休暇・充電)期間を設け、海外の文化や他分野を含む芸術などに触れながら、これまでの活動を振り返り、さらに今後の展開のヒントを得たいと考えている方を優先する

### I-2. 現代演劇・舞踊助成——芸術創造

#### 芸術創造活動 I

演劇界・舞踊界での活躍が期待される若手の芸術家/芸術団体に対し、経常費を含む年間の活動経費全般を対象に、その一部に対して助成金を交付(2005年度実績:300万円/件)。および希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。原則3年間にわたって助成を行なうが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象は下記すべての条件を満たしている個人または団体とする。ただし、個人の場合は、将来団体の設立を目標としていることを前提とし、プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本家、振付家)が固定していることを条件とする。

- ・ 申請時点で過去3回以上の公演実績がある
- ・ 活動歴が15年未満
- ・ 2004年度の支出規模が400万円以上である

#### 芸術創造活動 II

「芸術創造活動 I」の助成期間を終了した団体を申請対象者とする特別な継続助成プログラム。経常費を含む年間の活動費全般を対象に、その一部に対して助成金を交付(2005年度実績:300万円/件)。および希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。原則3年間にわたって助成を行なうが、継続の可否に関しては毎年見直す。なお、本プログラムの公募は2001年度の時点で〈芸術創造活動 I〉の助成を受けていた団体の申請をもって終了する。

#### 若手奨励助成

〈芸術創造活動 I〉に申請した一次選考通過者の中から今後の活動が目玉される若手に対し奨励金を付与する。

\* \* \*

#### 特別助成(国内)[非公募]

国内における現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野の活動を支援。



## Ⅱ 国際交流プログラム

### Ⅱ-1. 知的交流

#### 現代演劇・舞踊助成——知的交流活動

日本の現代演劇・舞踊芸術に関する会議・シンポジウムの開催、翻訳出版、上演を目的とする翻訳などを通じた日本文化の紹介に対する助成プログラム。対象者には企画経費の一部を助成(2005年度実績:55万円～100万円)し、希望者には会議等の会場として森下スタジオを提供。

#### 翻訳出版助成[非公募]

日本の社会科学・人文科学や文学に関する文献を海外に継続的に紹介する活動および関連事業に対して資金援助する。

### Ⅱ-2. 芸術交流

#### 現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動Ⅰ:プロジェクト支援

演劇・舞踊芸術の国際交流を通じた創造活動の活性化、ならびに日本の舞台芸術の国際化を目的とした、国際共同作業および公演、あるいはその過程で行なわれるワークショップ等に対するプログラム。森下スタジオの提供のみ(資金助成は非公募)。対象は、公演の主体となる芸術家/芸術団体、または企画をプロデュース/マネジメントする個人/団体。ただし、海外の芸術家/芸術団体が日本で公演を行なう場合は、日本側の受け入れ先が確定していることを条件とする。特に日本の現代演劇・舞踊の紹介に継続的に取り組もうとする非営利機関との共同創造事業を優先的に支援する。

#### 現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動Ⅱ:継続プロジェクト支援

演劇・舞踊の国際交流において特に重要な意義をもつと思われる2年以上の継続プロジェクトへの支援を目的とした助成プログラム。企画経費の一部に対して助成金を交付(2005年度実績:140万円～300万円)。希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。3年を上限として助成を行なうが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象となるのは、日本に活動の拠点を置き、申請時点で国際交流関係の事業の実績をもち、活動歴が10年以上の個人/団体。プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本家、振付家)が固定していることを条件とする。

#### 現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動F:日仏舞踊交流

「フランス・ダンス・03」からの寄付を得て、フランスを拠点に活動する現代舞踊家の活動紹介を支援する助成プログラムを2005年より2007年まで実施。レクチャー/デモンストレーション、公演などに対し製作費の一部を助成(2005年度実績:スタジオ助成～90万円)。希望者には森下スタジオを提供。フランスを拠点として活動をする舞踊/振付家で、日本に滞在し、自作のプレゼンテーションなどを通じて日仏現代舞踊交流に寄与するアーティストもしくは事業を制作する担当者、劇場などを対象とし、特に、日本ではまだあまり紹介されていないアーティストの活動を優先する。

#### 芸術交流活動[非公募]

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づいた芸術創造活動、日本文化紹介事業、フェローシッププログラム等に対して資金を提供する。

\* \* \*

#### 特別助成(国際交流)[非公募]

現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野における国際交流事業を支援。

#### ■自主製作事業・共催事業(セゾンシアタープログラム)・後援事業

自主製作事業としてセミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレターの刊行などを行なう。

共催事業「セゾンシアタープログラム」では、現代演劇・舞踊の創造過程を支援し、かつ日本の舞台芸術界を活性化させるために非営利団体等と協力して創造性ある企画を実施。

## Program Outline – 2005

### ■ GRANT PROGRAMS

The grant-making activities of the Saison Foundation consist of (I) national programs designed to activate the fields of contemporary Japanese theater and dance, and (II) international programs intended to promote mutual understanding between Japan and other nations/areas through intellectual and artistic exchange projects.

## I National Programs

### I-1. Contemporary Theater and Dance – *Creative Environment Improvement Program*

#### For Workshops, Conferences, Symposia, etc.

This program supports workshops, conferences, symposia, and other projects aimed to improve the infrastructure of the contemporary performing arts community in Japan (Range of grants given in this program in 2005: ¥300,000 – ¥1,500,000). Priority use of the Foundation's rehearsal facilities in Tokyo (Morishita Studio) may be awarded instead of grants depending on the nature of the project.

For the year 2005, the Foundation invited projects with the following purposes in particular:

- Training workshops for developing and enhancing directing, acting, choreographing, dancing, administrating, and technical skills
- Talent discovery/development programs by halls and performing spaces, etc.
- Policy proposal projects for generating dialogues on art support issues, or systematic research projects with the aim to lay the groundwork for such discussions
- Conferences or symposia for promoting data and information sharing/disclosure systems within the performing arts

#### For Arts Management Studies

This category assists Japanese performing arts managers to go abroad and study arts administration at universities or other educational institutions, or to undertake internships at performing arts organizations outside of Japan by awarding scholarships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) more than three years of professional experience in the field of performing arts administration, and (b) approval from the educational institution or performing arts organization accepting him or her for a period of more than three months, and (c) a long-term plan on how to contribute toward the development of Japanese theater or dance by applying the skills and knowledge acquired through their studies or internship.

#### Sabbatical Program

This category gives partial support to individuals who wish to travel abroad to come into contact with inter-cultural experiences

by awarding fellowships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) a base in Japan; (b) more than five years of professional working experience in one of the following occupations: directing, choreography, playwriting, performing arts criticism, or producing; and (c) plan to travel abroad for more than one month.

- Priority will be given to artists or producers who have been creating and presenting works continuously until the time of applying to this program, have an established reputation in their respective fields, and are considering to take a sabbatical leave during fiscal year 2005 to reconsider their past activities and receive inspiration for future activities through inter-cultural experiences.

### I-2. Contemporary Theater and Dance – *Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs*

The aim of these general operating support programs are to allow artists and/or companies to concentrate on their artistic work by awarding long-term grants of between three to six years and priority use of Morishita Studio for rehearsals and creative work.

#### Artistic Creativity Enhancement (ACE) Program I

This program awards grants and priority use of Morishita Studio for three consecutive years as a rule to promising Japanese theater and dance artists/companies with an active history of less than fifteen years and whose expenditures for the previous fiscal year were or are expected to be over ¥4,000,000. Individual artists are required to establish a company or organization in the near future (Range of grants given in this program in 2005: ¥3,000,000/company).

#### Artistic Creativity Enhancement (ACE) Program II

Grants and priority use of Morishita Studio are awarded for another three years as a rule to grantees chosen among the companies who have completed the above program (Range of grants given in this program in 2005: ¥3,000,000/company). This program will be terminated to accept applications publicly after those receiving the ACE I grants from 2001 or earlier use up their application rights.

#### Incentive Aid to Young Artists

Small subsidies are awarded to a chosen few among the young performing artists/companies who have applied to and passed the first screening of the ACE I program.

\* \* \*

#### Special Project Support Program (national) [designated fund program]

This program awards grants to cultural or artistic projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## II International Programs

### II-1. Intellectual Exchange Programs

#### **Contemporary Theater and Dance – Intellectual Exchange Program**

The Contemporary Theater and Dance – Intellectual Exchange Program supports conferences, symposia, translation/publication and other related projects that improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the international performing arts community (Grants given in this program in 2005: ¥550,000 – ¥1,000,000). Priority use of Morishita Studio is also awarded depending on the grantee's request.

#### **Translation/Publication Project Program [designated fund program]**

Financial support is provided to translation and publication projects of Japanese social science and humanities literature and to activities related to these areas.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

### II-2. Artistic Exchange Programs

#### **Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Program (studio award)**

The aim of this program is to stimulate international creative projects and to promote Japanese performing arts on a global scale, including collaboration projects and performances, and/or workshops held during the process of such activities (only Studio Awards are given under this program). Artists/companies organizing collaboration projects or performance tours, or individuals and organizations involved in the production and/or management of the above projects are eligible to apply to this program. Artists/companies based outside of Japan who are planning to conduct a tour in Japan are required to find a Japanese host organization before submitting an application. Priority will be given to collaboration projects with not-for-profit organizations outside of Japan that are committed to working with and presenting contemporary Japanese theater and dance artists/companies.

#### **Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Program – For Long-Term Projects**

A grant program that awards long-term grants to international exchange projects in which contemporary Japanese theater or dance artists/companies are involved and require more than two years until completion (Grants given in this program in 2005: ¥1,400,000 – ¥3,000,000). Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan with a professional career of more than ten years in the field of performing arts, and (b) with a history of artistic achievements in the area of intercultural

exchange activities at the time of application. Producing companies applying to this program are required to have a fixed artist (playwright, director, choreographer) for the project.

#### **Contemporary Theater and Dance – Franco-Japanese Dance Exchange**

Thanks to the generous donation made to our Foundation from the <france danse 03> program, The Saison Foundation has started a three-year grant program from 2005 to 2007 that will support contemporary dance artists based in France who plan to visit and present their work in Japan. Grants will be given as partial support to performances, lectures, and/or demonstrations that will take place in Japan with the aim to introduce the works and activities of French contemporary dance artists. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request (Awards given in this program in 2005: Studio Award ~ ¥900,000). Dancers and/or choreographers based in France who plan to stay in Japan and contribute to the enhancement of Franco-Japanese contemporary dance exchange through activities such as presenting their work in Japan are eligible to apply to this program. Producers/art managers and theater halls planning to present such projects may also apply. Priority will be given to projects featuring French artists who are relatively unknown in Japan.

#### **Artistic Exchange Project Program [designated fund program]**

This designated fund program supports activities by not-for-profit organizations outside of Japan with a continuous partnership with the Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

\* \* \*

#### **Special Project Support Grant Program (international) [designated fund program]**

This program provides support to international cultural exchange projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## ■ SPONSORSHIP, CO-SPONSORSHIP AND SUPPORT PROGRAMS

Apart from making grants, the Saison Foundation sponsors and organizes seminars, workshops, and symposia, and publishes a newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, the Saison Foundation also organizes creative projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program known as the Saison Theater Program.

## 本年度の事業について

常務理事 片山正夫

本年度は、現代演劇・舞踊分野を中心に、55件・総額7472万円の助成を行なった。また、同分野に関連した共催事業他分野の後援特別協力事業を、それぞれ2件ずつ開催した。長期的な取り組みが多いため、プログラムの枠組みに大きな変更は加えなかったが、「サバティカル」と銘打った自由度の高い研修プログラムの新設や、昨年試験的に導入した「若手奨励助成」の定例化など、小規模ながら問題意識を前面に出したプログラムの導入を図り、全体としての鮮度を失わないよう配慮したつもりである。助成金額は、前年度に比べ約550万円増額することができたが、これは(株)クレディセゾンから受け入れた寄附金による部分が大きい。同社のご支援に改めて感謝したいと思う。

寄附金ということでは、本年度から3カ年の予定でスタートした日仏舞踊交流プログラムは、前年度「フランス・ダンス・03」より受け入れた寄附金を財源とした助成プログラムである。当財団ではこれを特定目的の基金とし、本年度はその一部を取り崩して、フランスを拠点に活動する現代舞踊家が日本で作品発表を行なう際の資金に充てた。

助成事業以外でも、当財団がシンガポールの劇団ネセサリー・ステージと本年度共催した、4カ国のアーティストによる共同製作事業「Mobile ——アジアの移住労働者」は、東京都とアサヒビール芸術文化財団から助成をいただいて実現したものである。

まだ収入全体の中での比率は高くないとはいえ、おそらく助成財団が、このように外部から目的を特定した資金を受け入れるのは、企業財団への親会社からの寄附を除くと、わが国ではそれほど例のないことなのではないかと思う。これはひとつには当財団が、純粋な助成財団の枠を出て、森下スタジオという「場」を運営し、自主・共催事業も継続的に行なってきたことによる。だが同時にこれは、演劇・舞踊助成における当財団の実績や専門性を、外部から評価していただいた結果でもあろう。

このように、外部のさまざまな支援資金を入れつつ助成活動を

行なっている財団は、世界的に見るなら例がないわけではない。われわれにとって身近なところでは、当財団の米国でのパートナーであるアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)がその好例である。ACCは、米国とアジア諸国間の芸術交流を目的とした財団であるが、活動の主たる部分を個人対象のフェローシップが占めている。そのフェローシップの原資としてACCは、当財団を含む多くの財団、個人から支援を受けているのである。その内容は、目的を特定した基金への寄附、目的を特定しない基金への寄附、その年度の運営資金としての助成金など多様である。言うまでもなく、このような運営が可能なのは、同財団の理念とそれを具現化しうる執行能力を、助成機関や寄附者が評価しているためである。

財団の経営環境に目をやると、金利はとりあえず底打ちしたかに見えるが、本格的な上昇にはまだ時間がかかりそうである。9割以上を運用収入に依存する当財団としては、当面は引き続き厳しい状況が続くと思われる。本年度は資産運用の一層の効率化に努めることにより、何とか実質的に3%近い利回りが確保できたものの、基金の安全性を考慮すれば、高い利回りの追求には限度がある。このような中でさらに事業プログラムを拡充していこうとした時、これまで培った当財団の実績や能力を、外部資金の導入にどう結び付けていくかは、これからの重要な検討課題のひとつになりそうである。

なお、本年度は現代演劇・舞踊助成の審査にあたり、下記の方々にご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

内野 儀(東京大学大学院総合文化研究科助教授)

榎本了壺(クリエイティブディレクター)

奥山 緑(アムアーツ代表/神奈川芸術文化財団プロデューサー)

國吉和子(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館客員教授)

堤 広志(編集者/演劇・舞踊ジャーナリスト)

新野守広(「シアターアーツ」編集委員/立教大学教授)

(敬称略・肩書は2005年2月現在)



## About Our Programs in 2005

Masao Katayama Managing Director

In 2005, the Saison Foundation supported fifty-five projects and companies mostly in the fields of contemporary theater and dance, and expended a total of ¥74,720,000 for grants. It also co-sponsored two projects relating to the above fields, while two in other fields took place as a special support and co-operation program respectively. No significant change was made in the outline of the grant programs since many of them require a long-term engagement, but we introduced a few programs that are small in scale but reflect our awareness to the problems within the concerning fields in order to maintain a sense of freshness among our programs as a whole. The examples are a flexible fellowship program named Sabbatical, and the Incentive Aid to Young Artists, which were formally introduced after a trial period in the previous year. We were able to increase our grant expense budget by ¥5,500,000 owing mainly to the donation from Credit Saison Co., Ltd., to whom we would like to express our gratitude here.

Speaking of donations, the **Franco-Japanese Dance Exchange Program**, which started this year as a three-year limited program, is based on the donation received last year from the ‘*france danse 03*’ project. The donation became a specific purpose fund, and part of it was allotted this year to the performances in Japan by contemporary dancers from France. Apart from our grant-making projects, the Saison Foundation co-sponsored a project with the Singaporean theater company **The Necessary Stage**, in which artists from four countries took part in, entitled *Mobile – Asian Migrant Worker Project* and was made possible by the grants from the Tokyo Metropolitan Government and Asahi Beer Arts Foundation.

It may be rather exceptional in Japan that a grant-making foundation receives funds from other organization – except for its parent company – for a specific purpose, even though the proportion in the total income is not so large. What enables us to do so may be the fact that the Saison Foundation has expanded its activities beyond the scope of an ordinary grant foundation by operating the space or “setting” of Morishita Studio, and has continuously sponsored and co-sponsored theater and dance projects there. It also probably means that our achievements and expertise in the field of grant-making in theater and dance have been rightly appreciated.

Outside Japan, however, there indeed are several grant-making

foundations that receive financial support from various sources. A good example is the **Asian Cultural Council (ACC)**, which is our foundation’s partner in America. ACC is a foundation that aims to promote artistic exchange between the U.S. and Asian countries, and individual fellowship awards account for most of their activities. ACC receives support from many individuals and foundations including ours as funds for such fellowship awards. The support ACC receives comprises various types of donations, such as funds either with or without specific purposes and those for annual operational expenses. Such a conduct is possible for ACC because its ideal as well as its performance acknowledged widely among other grant-making organizations and donors.

Regarding the condition for managing our foundation, interest rates in Japan seem to have touched rock bottom; yet it may take some more time for us to see a genuine rise in the rates. In the case of the Saison Foundation, we will probably remain under the present severe condition for a while since more than ninety percent of our revenue depends on interest income. This year we were able to virtually secure nearly three percent returns by improving efficiency in fund management, but we shall refrain from pursuing higher returns for the safety of the funds. When we intend to expand our programs under these circumstances, it will become more important how we should employ the achievements and qualities of the Foundation advantageously to bring in financial resources from other organizations.

Lastly, we received assistance from those listed below during the selection process of the awards for contemporary theater and dance. We would like to take this opportunity to express our deep gratitude to them.

Tadashi Uchino (Associate Professor, Graduate School of Arts and Science, the University of Tokyo)

Ryoichi Enomoto (Creative Director)

Midori Okuyama (Director, Âme Arts / Producer, Kanagawa Arts Foundation)

Kazuko Kuniyoshi (Visiting Professor, The Tsubouchi Memorial Theatre Museum of Waseda University)

Hiroshi Tsutsumi (Editor / Theater and Dance Journalist)

Morihiro Niino (Contributing Editor, *Theater Arts* / Professor, Rikkyo University)

# I 国内プログラム National Programs

## I-1. 現代演劇・舞踊助成——創造環境整備

創造環境整備プログラムでは、現代演劇・舞踊界の創造基盤に関わる問題解決・改善に向けての活動を支援することを目的としている。2005年度は21件の事業を採択した。

本年度は、海外での個人研修への助成を「サバティカル——休暇・充電助成プログラム」と名称変更した。これは、アーティストをはじめとする多忙な舞台芸術関係の方々に、休暇・充電期間を自発的にとっていただき、海外の文化／芸術に触れながら、今後の活動を継続するための鋭気を養ってもらおうというプログラムだ。今年度は、舞踊家の伊藤キムの「世界一周旅行(自己研鑽と今後のクリエイションに向けての充電)」に助成が決定した。伊藤は、国内外で数多くの公演を抱える極めて多忙な舞踊家のひとりで、かねてから自己充電の機会のために仕事を離れた渡航を希望していたと言う。193日間にわたる渡航は中国から始まり、中央アジア、中東、ヨーロッパ、北アフリカ、南米、北米と、地域をまたがる計18カ国を訪問。今回の「旅」が伊藤の創作活動にどのような影響を与えるのか見守りたい。



伊藤キム、サバティカルプログラムによる世界一周旅行、2005-06年  
Kim Itoh during his trip around the world, Sabbatical Program, 2005-06.

そのほか、創意と工夫に満ちた提案に今年度も新しく助成を開始した。

京都芸術センター／財団法人京都市芸術文化協会による「演劇計画2005」は、顕彰、ディスカッション、シンポジウム、ワークショップ、上演からなる複合的なアプローチで「演出」に焦点をあて、演出家の人材発掘、育成を試みるフェスティバル形式の事業。今年度は、若手の演出家三浦基による『from DICTEE』と水沼健による『象を使う』のふたつの公演を実施したほか、若手発掘と奨励のために設置された京都芸術センター舞台芸術賞には、佳作賞として東野祥子の『Baby-Q Solo Dance [error cord /// pcsh404slhq]』と司辻有香の『辻企画第3回公演「I love you (In the bed)」』が選ばれた。その他にも、注目される若手演出家たちによるシンポジウム、太田省吾や鈴木忠志を招いたトークなども開催され厚みのある内容となった。同様に、演出に着目した事業として、A・T 創坊による「ポストドラマ演劇の実践ワークショップ」にも助成が決定した。これは、従来からの演劇を打破する現代的な表現を追求するために、演出家である阿部初美が立ち上げたワークショップで、公演を目的とせず、映像、美術、音楽など、多様な側面から舞台表現の可能性を探るワークショップだ。参加者も音楽家、俳優、ドラマツルグなどが劇団や分野を超えて集まった。初年度は、音楽をテーマに色々な実験を試み、実際の公演にも充分に役に立つ新しい知識を獲得したという。次年度は、映像作家との作業を実験的に試みたいと考えた。演出には、劇作や演技のようなトレーニングの方法はなく、実践の積み重ねが重要なのだという意見をよく耳にする。今年度から開始した「演出」に着目した2件の事業の今後の展開に注目したい。

TOKYOSCAPE 実行委員会は、演劇界の交流が地域から東京への一方通行ばかりである状況が人的交流の機会を減少させ、各

地の演劇人の表現活動を鈍化させる誘因になっていると考え、東京を拠点とする有志の中堅劇団が集まり、京都の小劇場界に乗り込み、公演を実施することで、相互に刺激を与えあい双方の活性化を促すことを目的に設立された。公演の実施は2006年の夏だが、本年度は「TOKYOSCAPE プレイベント」と銘打ち、参加カンパニーが京都に一週間滞在し、自己紹介とリサーチを兼ねたワークショップやショーケースを実施。京都の演劇人たちと交流を深めた。予想していた以上に、それぞれの価値観、認識の違いにとまどうことが多かったという報告もあったが、双方向交流の道筋作りをぜひとも成功させて欲しい。

吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会は、コンテンポラリー・ダンスの「先端性」「先鋭的」な魅力を、現代美術、ファッション、演劇、ポップ・ミュージック、インディペンデント系映画の観客にも伝え、その裾野を広げることを目的に設立された任意団体。主宰者の独自の視点で選ばれた7～8組からなる個性的なアーティストの作品を2時間弱のステージで次々と紹介していく。ジャンルを超えた多くの観客を動員し、美術の専門雑誌に同企画を中心としたダンス特集が組まれるなど、反響を得た。新しい切り口でコンテンポラリー・ダンスの魅力を紹介する事業として、今後の展開に期待する。

そのほか演劇舞踊とも、さまざまなアプローチから、技術力や創造性を高めることを目的とした多くのワークショップに助成が決定している。

アーツマネジメント留学の対象者の浅川いづみは、コロンビア大学大学院演劇学科(ドラマツルギー専攻)の修士課程を修了。06年1月末から8月まで、劇作家を中心とした作品づくりを行なっているニューヨークの非営利劇団シグネチャー・シアターカンパニーでインターンを実施。帰国後はフリーランスで、仕事を展開する考えだという。



**現代演劇・舞踊助成 —— 創造環境整備**  
助成対象 21 件 / 助成総額: 13,450,000 円

■演劇教育

池内美奈子  
ショーケースを目的とした声と言葉のトレーニング

2005 年 8 月 8 日ー 8 月 28 日  
東京(森下スタジオ、芸能花伝舎)  
1,000,000 円 スタジオ提供 12 日間

A-T 創坊  
ポストドラマ演劇の実践ワークショップ  
2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 4 月 14 日  
東京(森下スタジオ)  
350,000 円 スタジオ提供 14 日間

特定非営利活動法人 ST スポット横浜  
創造共同体 ― 契約アーティストのいる劇場 ―

2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 3 月 31 日  
神奈川(ST スポット、BankART Studio NYK)  
1,000,000 円 スタジオ提供 16 日間

シアター・ジャパン・プロダクションズ  
ニューヨーク・アクトーズ・ワークショップ イン 東京

2005 年 6 月 20 日ー 7 月 3 日  
東京(森下スタジオ)  
スタジオ提供 14 日間

デラルテ舍  
デラルテ舍ワークショップ 2005-2006「コメディ  
ア・デラルテ&ステージ・コンバット」  
2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 5 月 31 日  
東京(森下スタジオ)  
スタジオ提供 23 日間

(社) 日本劇団協議会  
フィリップ・ゴーリエ演劇ワークショップ  
2005 年 7 月 19 日ー 7 月 30 日  
東京(森下スタジオ)  
スタジオ提供 9 日間

花組芝居  
平成新女形講習  
2005 年 7 月 11 日ー 7 月 23 日  
東京(森下スタジオ)

300,000 円 スタジオ提供 13 日間

■舞踊教育

セッションハウス企画室  
レジデンス・アーティスト・システム「育てて、外へ。」プロジェクト  
2005 年 4 月 7 日ー 2006 年 4 月 8 日  
東京(セッションハウス地下スタジオ、森下スタジオ)  
1,000,000 円 スタジオ提供 1 日間

S・O・L・O Ontario Limited  
Class & Talk Project Vol. 4  
2005 年 7 月 7 日ー 7 月 10 日  
東京(森下スタジオ)  
スタジオ提供 8 日間

Dance Company BABY-Q  
BABY-Q DANCE WORKSHOP  
2005 年 7 月 27 日ー 7 月 31 日  
東京(森下スタジオ)  
300,000 円 スタジオ提供 7 日間

特定非営利活動法人 ダンスボックス  
DANCE BOX ― コンテンポラリーダンス育成  
支援プログラム ―  
2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 3 月 31 日  
大阪(Art Theatre dB)  
1,000,000 円

■情報交流

吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会  
吾妻橋ダンスクロッシング  
2005 年 9 月 23 日ー 2006 年 3 月 25 日  
東京(アサヒ・アートスクエア)  
1,000,000 円 スタジオ提供 2 日間

京都芸術センター/財団法人京都市芸術文化  
協会  
演劇計画 2005  
2005 年 6 月 15 日ー 10 月 28 日  
京都(京都芸術センター)  
1,000,000 円

クリティック・ライン・プロジェクト実行委員会  
クリティック・ライン・プロジェクト  
2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 6 月 30 日  
東京(インターネット上)  
600,000 円

芸術分野海外研修サポートプロジェクト

芸術分野海外研修サポートプロジェクト

2005 年 4 月 1 日ー 2006 年 3 月 31 日  
東京(国際交流基金国際会議場、文京シビックホール、芸能花伝舎、フリースペースカンバス)  
1,000,000 円

ダンス・アンド・メディア・ジャパン  
ダンスとメディア 2005/2006 ライブ・フロム・韓国、  
イスラエル、ドイツ

2005 年 8 月 1 日ー 2006 年 4 月 9 日  
東京、神奈川、静岡(森下スタジオ、BankART  
Studio NYK、下田市南豆製氷所、P-HOUSE、アー  
キタンツ、ドイツ文化会館)  
1,500,000 円 スタジオ提供 12 日間

ダンス・ワークショップ・リンク事務局  
ダンス・ワークショップ・リンク

2005 年 4 月 9 日ー 5 月 15 日  
福岡、愛媛、広島、高知、宮城、京都(福岡市民会館、  
松山大学、京都芸術センター他)  
1,000,000 円

TOKYOSCAPE 実行委員会  
TOKYOSCAPE プレイイベント

2005 年 12 月 19 日ー 12 月 25 日  
東京、京都(森下スタジオ、アトリエ劇研、人間座  
アトリエ、スペースイサン)  
1,000,000 円 スタジオ提供 14 日間

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル  
(ニバフ) 実行委員会

第 10 回ニバフ・アジア・パフォーマンス・アート  
連続展+第 2 回ニバフ・アジア・パフォーマンス・  
アート東京会議

2005 年 7 月 16 日ー 8 月 2 日  
東京、愛知、長野(森下スタジオ、ひだまりハウス、  
むつみ高校、ネオンホール)  
スタジオ提供 5 日間

■留学・サバティカル

浅川いづみ  
コロンビア大学スクール・オブ・アーツ大学院  
演劇学科 ドラマツルギー専攻

2005 年 9 月 1 日ー 2006 年 5 月 17 日  
ニューヨーク(Columbia University, School of the  
Arts)  
700,000 円

伊藤キム  
世界一周旅行

2005 年 10 月 12 日ー 2006 年 4 月 22 日  
中国、キルギス、アゼルバイジャン、アルメニア、トル  
コ他  
700,000 円

## I-1. Contemporary Theater and Dance – Creative Environment Improvement Program

The Creative Environment Improvement Program supports projects with the aim to improve the basic framework for creative activities in the field of contemporary theater and dance. In 2005, twenty-one projects were awarded grants.

The overseas individual fellowship under this program was renamed as 'Sabbatical Program'. This is a fellowship program to encourage those working in the performing arts, including artists, who are usually extremely busy to take a vacation and to refresh themselves while enjoying arts and cultures abroad, so that they can start their activities afresh. This year, dance artist Kim Itoh was awarded the fellowship for his travel project entitled 'Recuperation for self-knowledge and improvement and for future creative work'. Itoh has been one of the most extremely active dance artists during the past several years, giving a number of performances in Japan as well as overseas and producing new work each year, and had been considering to leave his work for awhile to refresh himself abroad. Starting from China, he traveled for 193 days to eighteen countries in Central Asia, the Middle East, Europe, North Africa, South America, and North America. We are looking forward to see how his travels will make an impact on his creative activities.

New grants were started this year for other innovative projects. The Kyoto Art Center / Kyoto Arts Culture Foundation is working to discover and foster new

talents in directing through its festival-style 'Theater Project 2005'. The project focuses on 'stage directing' from multiple points of view and includes awards, discussions, symposia, workshops, and performances. In 2005 they presented two works by young directors, *from DICTEE* by Motoi Miura and *Use an Elephant* by Takeshi Mizunuma, while the Kyoto Art Center Theatre Award gave honorable mention awards to *Baby-Q Solo Dance [error cord /// pcsh404slhq]* by Yoko Higashino and the *Third Performance of Tsujikikaku: I love you (In the bed)* by Arika Kasatsuji. Other events such as a symposium by young and promising directors, and discussion events by Shogo Ohta and Tadashi Suzuki contributed to make it a profound project. Another project that we awarded a grant to as a directing-focused project was 'Practical Workshop for Post-dramatics Theater' by A-T creative workshop. Led by director Hatsumi Abe, the workshop does not aim to give performances but to seek the possibilities of theater from various aspects, including video, design, music, etc., and the participants were also from different disciplines and companies, such as musicians, actors and actresses, and dramaturgists. In the first year they conducted a range of experiments by using music as a theme, and gained practical knowledge that could be used in actual performances. Now they are planning to collaborate experimentally with video artists during the second year. It is often said that directing has no method of training like those for acting or dramaturgy, and that accumulation of practical experience is essential. We plan to pay attention to the development of these two projects focusing on 'stage directing' that started this year.

The one-way flow from provinces to Tokyo in the theatrical world decreases the chance of human exchange and consequently blunts the creative activities of local theater artists. A number of experienced theater companies based in Tokyo established TOKYOSCAPE in order to modify this situation by staging their

works within the small-theater community in Kyoto, and thereby stimulating and activating the theatrical scenes of both cities. In prior to the first performances that will take place in the summer of 2006, this year the participating companies spent a week in Kyoto conducting workshops and showcases as an opportunity to introduce themselves and for research as a TOKYOSCAPE Pre-event. Exchanges took place in a friendly manner between the participants and their counterparts in Kyoto. It is reported that they were often perplexed by the differences in each other's sense of values or awareness. We hope this attempt will successfully pave the way to their mutual communication.

Azumabashi Dance Crossing Committee is a private voluntary association that aims to broaden the audience of contemporary dance by transmitting its 'cutting-edge' appeal to those who appreciate contemporary art, fashion, theater, popular music, and independent films. Seven or eight works by artists of striking originality selected by the organizers from a unique viewpoint were presented on stage within a show of less than two hours. It attracted a substantial audience from various fields, and provoked a welcoming reaction; for example, an art magazine did a feature on dance that especially focused on this project. We expect this project will bring forward the allure of contemporary dance in a novel manner.

Furthermore, many other theater and dance workshops, which aim to develop skills and creativity, were awarded grants this year.

Izumi Asakawa, a dramaturgy major who received a fellowship from our Arts Management Study Program, completed her master's course in drama at Columbia University in New York. She did an internship from the end of January till August 2006 at the Signature Theatre Company, a nonprofit theater company where playwrights take an initiative in presenting plays, and hopes to do free-lance work after returning to Japan.



ダンスボックス「One-Dance」 撮影:伊東かおり  
One-Dance organized by NPO DANCE BOX in Osaka.  
Photo: Kaori Ito



池内美奈子「ショーケースを目的とした声と言葉のトレーニング」森下スタジオ 2005年8月 撮影:江川誠志  
Minako Ikeuchi's Voice and Movement Training workshop at Morishita Studio, August 2005. Photo: Seiji Egawa



京都芸術センター「演劇計画 2005」2005年10月 撮影:清水俊洋  
Theater Project 2005 organized by Kyoto Art Center, October 2005. Photo: Toshihiro Shimizu

### Contemporary Theater and Dance – Creative Environment Improvement Program

21 Grantees/Total appropriations:  
¥13,450,000

#### ■ Workshops and Educational Projects

##### [Theater/Drama]

Association of Japanese Theatre  
Companies  
The Workshop of Philippe Gaulier  
July 19 – July 30, 2005  
Tokyo (Morishita Studio)  
Studio Rental: 9 days

A-T creative workshop  
Practical workshop for post dramatics  
theater  
April 1, 2005 – April 14, 2006  
Tokyo (Morishita Studio)  
¥350,000 Studio Rental: 14 days

Dell'Arte Company  
Dell'Arte Company workshop 2005-2006  
COMMEDIA DELL'ARTE & STAGE COMBAT  
April 1, 2005 – May 31, 2006  
Tokyo (Morishita Studio)  
Studio Rental: 23 days

Hanagumi Shibai  
Heisei Shin-ONNAGATA Workshop  
(courses for contemporary theater actors on  
the Kabuki acting form of male actors playing  
female roles)  
July 11 – July 23, 2005  
Tokyo (Morishita Studio)  
¥300,000 Studio Rental: 13 days

Ikeuchi Minako  
Voice and Speech Training Culminating in  
a Showcase  
August 8 – August 28, 2005  
Tokyo (Morishita Studio, Geino-Kadensha)  
¥1,000,000 Studio Rental: 12 days

ST Spot Yokohama  
the creation company  
April 1, 2005 – March 31, 2006  
Kanagawa (ST Spot, BankART Studio NYK)  
¥1,000,000 Studio Rental: 16 days

Theatre Japan Productions, Inc.

##### New York Actors Workshop in Tokyo

June 20 – July 3, 2005  
Tokyo (Morishita Studio)  
Studio Rental: 14 days

##### [Dance]

NPO DANCE BOX  
The Composite Supporting Program for  
Raising Contemporary Dance Artists &  
Environments  
April 1, 2005 – March 31, 2006  
Osaka (Art Theatre dB)  
¥1,000,000

Dance Company BABY-Q  
BABY-Q DANCE WORKSHOP  
July 27 – July 31, 2005  
Tokyo (Morishita Studio)  
¥300,000 Studio Rental: 7 days

Session House Planning Office  
Session House Residence Artists System  
April 7, 2005 – April 8, 2006  
Tokyo (Session House, Morishita Studio)  
¥1,000,000 Studio Rental: 1 day

S•O•L•O Ontario Limited  
Class & Talk Project Vol. 4  
July 7 – July 10, 2005  
Tokyo (Morishita Studio)  
Studio Rental: 8 days

##### [Data Sharing/Communication]

Azumabashi Dance Crossing Committee  
Azumabashi Dance Crossing  
September 23, 2005 – March 25, 2006  
Tokyo (Asahi Arts Square)  
¥1,000,000 Studio Rental: 2 days

Critic Line Project  
Critic Line Project  
April 1, 2005 – June 30, 2006  
Tokyo (Internet)  
¥600,000

Dance and Media Japan  
DANCE and MEDIA 2005/2006 The Live  
from Korea, Israel, Germany  
August 1, 2005 – April 9, 2006  
Tokyo, Kanagawa, Shizuoka (Morishita  
Studio, BankART Studio NYK, NANZU ICE  
PLANT-SHIMODA, P-HOUSE, ARCHITANZ,  
Goethe Institute Tokyo)  
¥1,500,000 Studio Rental: 12 days

Dance Workshop Link Office

##### Dance Workshop Link

April 9 – May 15, 2005  
Fukuoka, Ehime, Hiroshima, Kochi, Miyagi, Kyoto  
(Fukuoka City Hall, Matsuyama University, Kyoto  
Art Center, etc.)  
¥1,000,000

Kyoto Art Center/Kyoto Arts Culture  
Foundation  
Theater Project 2005  
June 15 – October 28, 2005  
Kyoto (Kyoto Art Center)  
¥1,000,000

Nippon International Performance Art  
Festival (NIPAF) Executive Committee  
10th NIPAF Performance Art Series + 2nd  
Asia Performance Art Meeting  
July 16 – August 2, 2005  
Tokyo, Aichi, Nagano (Morishita Studio,  
Hidamari House, Mutsumi High School, Neon  
Hall)  
Studio Rental: 5 days

TOKYOSCAPE  
TOKYOSCAPE Pre-event  
December 19 – December 25, 2005  
Tokyo, Kyoto (Morishita Studio, Atelier Gekken,  
Ningenza Atelier, Space Isan)  
¥1,000,000 Studio Rental: 14 days

United Fellows of the Arts  
United Fellows of the Arts  
April 1, 2005 – March 31, 2006  
Tokyo (Japan Foundation, Bunkyo Civic Hall,  
Geino-Kadensha, Free Space Canvas)  
¥1,000,000

##### [Arts Management Scholarship & Sabbatical Programs]

Izumi Asakawa  
Columbia University School of the Arts,  
Theatre Arts, Dramaturgy  
September 1, 2005 – March 17, 2006  
New York (Columbia University, School of the  
Arts)  
¥700,000

Kim Itoh (Sabbatical)  
Trip around the world  
October 12, 2005 – April 22, 2006  
China, Kyrgyz, Azerbaijan, Armenia, Turkey, etc.  
¥700,000

## I-2. 現代演劇・舞踊助成——芸術創造

芸術団体に対し複数年にわたって運営助成を行なう本プログラムでは、現代演劇・舞踊界での活躍が今後期待される若手と、次段階としてさらに国際的な活躍が期待される中堅の芸術団体の育成を目的とし、芸術創造活動ⅠとⅡの2段階(原則としてそれぞれ3年間の継続助成)で、助成金の交付および森下スタジオの提供による支援を行なっている。

本年度は芸術創造活動Ⅰの助成対象者として、演劇の**地点と劇団**、**本谷有希子**、舞踊の**Co. 山田うん**が新たに選拔され、前年度からのⅠ、Ⅱの継続助成をあわせると11団体への助成を行なった。

**地点ば演出**を専業とする演出家三浦基と、その独自の演出方法をともに追求していく俳優・スタッフを構成メンバーとする芸術集団として1997年に設立。劇作家が演出を兼任することが一般的な小劇場界にあって、演出家が演出業に専念するというヨーロッパ的なスタイルを採用した芸術団体として、日本の現代演劇の新たな地平を拓くことを目的としている。三浦基の演出は、台詞を音節レベルまで断片化し、音楽的に発話することが特徴である。テキストの綿密な解釈と身体性の追求に

よる独特の作劇をもって、劇空間に新たな〈リアル〉を創造することを目指している。

劇団、本谷有希子は、2000年、劇作家・演出家の本谷有希子を中心に旗揚げ。専属の役者を設けないプロデュースユニットとして活動を開始。「人間の根本」をテーマに、家族、恋人、友人などの関係性の中でヒトがさまざまな感情に葛藤する姿を、若い世代の書き手らしい新しい世界観で捉える。執拗なまでに描かれる登場人物の内面描写、展開が予想できない独自の物語性を特徴とする。

Co. 山田うんは、これまでに小作品、実験的作品を中心に多くのソロ作品、コラボレーション作品を創作してきた振付家・ダンサーの山田うんが、独自のダンス・振付スタイルをさらに確立し、創造活動の幅を広げるため、2002年に設立したダンスカンパニー。数人のコアメンバーを擁しつつ、新作創作においては、作品固有の世界観を重視するため、出演者をオーディションで選定していることが特徴のひとつ。これまでワークショップ活動も継続的に行ない、ここ数年は特に小学生向けの企画、障がい者のためのプログラムなどを数多く実施している。

継続助成が決まったもののうち、5件が本年度で継続助成最終年度を迎えた。芸術創造活動Ⅰでは、演劇の**うずめ劇場**が多くのヨーロッパ戯曲を日本に紹介する役割を果たし、舞踊の**珍しいキノコ舞踊団**はジャンルを超えて、美術分野等からも活動が目されてきた。芸術創造活動Ⅱでは、演劇の**桃園会**の深津篤史が2005年度に読売演劇大賞演出家賞を受賞、舞踊の**イデビアン・クルー**は井手茂太がアサヒビール芸術賞を受賞し、振付家としての評価を確立するとともに、カンパニーメンバーも作品創作を行ない、**Dance Theatre LUDENS**は作品のレパートリー化や国内各地での公演に精力的に取り組んだ。本年度の活動概要については後述のデータ編を参照されたい。

また、2004年度より開始した、今後の活動が期待される若手アーティストへの支援策の一環として、芸術鑑賞やワークショップ参加などの研修を奨励する若手奨励助成は、2005年度も引き続き行なわれた。今年度は、演劇分野では、五反田団の前田司郎、舞踊分野では Dance Company BABY-Q の東野祥子に対し奨励金を付与した。



## I-2. Contemporary Theater and Dance – *Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs*

---

The Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs, which offer operating support to theater and dance companies on a multi-year basis through grants and priority use of Morishita Studio, are divided into two levels (basically three years for each level). The first level, Program I, is designed to support the young generation of artists whose activities are expected to make an impact on the fields of contemporary Japanese theater or dance in the future; Program II is for the further development of full-fledged companies who are expected to become active within the international performing arts community.

In 2005, two theater companies, **Chiten** and **gekidan motoyayukiko**, and a dance company, **Co. Yamada Un**, were newly selected as ACE Program I grantees. Including the companies that had been selected last year, a total of eleven companies were supported under both levels of these programs.

Chiten was founded in 1997 by director Motoi Miura and actors and staff who share his original style of directing. Though it is customary that a playwright also acts as a director in the small theater scene in Japan, Chiten employs the “European” style in which a director concentrates on directing, with the aim to open up a new ground in contemporary theater in Japan. Miura has a unique style of directing, syllabifying the

words to make the dialogue sound like music. His work intends to create a new sense of reality in the theater through his thorough interpretation of the text and the pursuit of the physical body on stage.

gekidan motoyayukiko was founded in 2000 by playwright and director Yukiko Motoya. The company is a production-based unit with no actors and actresses under contract to it. Motoya focuses on ‘the essence of human beings’ and her works depict people suffering from emotional conflicts with their family members, friends, and boy/girlfriends, in a way only possible by a playwright of the younger generation. Her dramas are characterized by the persistent description of the character’s mind and a unique style of story development that negates the conventional predictions of the audience.

Co. Yamada Un was launched in 2002 by dancer and choreographer Un Yamada, who aims to complete her own style of dance and to broaden the range of her activities. While having a few principal members, the company auditions additional dancers to take part in a new work as they believe in the uniqueness of each work. They have constantly held workshops and have placed emphasis on programs for schoolchildren and the handicapped during the last few years.

Among the grant recipients since the

previous year, the following five completed their grant-receiving terms in 2005. **Uzume Theater**, a grantee of Program I, introduced a number of European plays to Japanese audiences, and **Strange Kinoko Dance Co.**, also a grantee of Program I, attracted attention from other artistic genres of art including the visual arts. As for the activities supported under Program II, Shigefumi Fukatsu, artistic director of the theater company **Tōenkai**, won the Yomiuri Theater Award for Best Direction in 2005. Shigehiro Ide, artistic director of the dance company **Idevian Crew**, won the Asahi Beer Arts Prize and secured his status as a choreographer, while other members of the company also created their original work. **Dance Theatre LUDENS** was especially active in introducing the repertory system and in holding performances widely throughout in Japan. Details on the activities of these companies in 2005 are listed in the following pages.

Furthermore, we continued a grant program that we started last year as part of our scheme to support young promising artists: a program that encourages them to have opportunities to see and appreciate works of art or to participate in workshops. In 2005, grants were given to Shiro Maeda of the theater company **Gotandadan** and Yoko Higashino of Dance Company **BABY-Q**.

**現代演劇・舞踊助成——芸術創造活動 I**

助成対象 6 件 / 助成総額 18,000,000 円

**Contemporary Theater and Dance – Artistic Creativity Enhancement Program I**

6 Grantees / Total appropriations: ¥18,000,000

地点 [演劇 / 京都]

Chiten [theater / Kyoto]

2005 年度より

From 2005



『沈黙と光』東京公演 2006 年 1 月 撮影:青木司  
Chinmoku to Hikari in Tokyo, January 2006. Photo: Tsukasa Aoki



三浦基  
Motoi Miura

●継続助成対象期間

2005 年度から 2007 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 – 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

4-5 月:『Jericho』ツアー 2005 (フランス)

8-9 月:利賀演出家コンクール参加、三浦基が優秀賞受賞

06 年 1 月:第 10 回公演 松田正隆戯曲 2 本立て  
『Jericho』『沈黙と光』京都、東京公演

●Grant-receiving term

From 2005 to 2007

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 – March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

●Major activities during fiscal year 2005

[Performances]

April-May: *Jericho* tour 2005 in France

August-September: Motoi Miura directs *The Seagull* and wins a prize at the Toga Director's contest in Toyama

January: Performances of *Jericho* and *Chinmoku to Hikari* in Kyoto and Tokyo

主宰: 三浦基 (演出家)

制作: 田嶋結菜

artistic director: Motoi Miura (director)

producer: Yuna Tajima

[yunat@chiten.org](mailto:yunat@chiten.org)

<http://www.chiten.org>



『乱暴と待機』東京公演 2005 年 4 月 撮影:尾形秀夫  
*Ranbou to Taiki (Vengeance Can Wait)* in Tokyo, April 2005. Photo: Hideo Ogata



本谷有希子 撮影:尾形秀夫  
Yukiko Motoya. Photo: Hideo Ogata

●継続助成対象期間

2005 年度から 2007 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日

金額:3,000,000 円

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

4 月:第 9 回公演『乱暴と待機』東京公演

12 月:第 10 回公演:『無理矢理』東京公演

●Grant-receiving term

From 2005 to 2007

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: January 1 - December 31, 2005

Grant: ¥ 3,000,000

●Major activities during fiscal year 2005

[Performances]

April: Performance of *Ranbou to Taiki*  
(*Vengeance Can Wait*) in Tokyo

December: Performance of *MURIYARI (By force)*  
in Tokyo

主宰:本谷有希子 (劇作家・演出家)

制作:寺本真美

artistic director: Yukiko Motoya (playwright,  
director)

producer: Mami Teramoto

[gekidan@motoyayukiko.com](mailto:gekidan@motoyayukiko.com)

<http://www.motoyayukiko.com>



『gés』東京公演 2006 年 2 月 撮影:Raita Yamamoto  
gés in Tokyo, February 2006. Photo: Raita Yamamoto



山田うん 撮影:鹿島聖子  
Un Yamada. Photo:Shoko Kashima

主宰: 山田うん (振付家・ダンサー)

制作: 菊丸喜美子

artistic director: Un Yamada (choreographer,  
dancer)

producer: Kimiko Kikumaru

[can@contemporary-art-network.com](mailto:can@contemporary-art-network.com)

<http://www1.ocn.ne.jp/~yaun/>

●継続助成対象期間

2005 年度から 2007 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供(2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):65 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

6 月:ヨーロッパツアー 2005 (InTransit 05 参加ドイツ公演、イギリス公演)

10 月:公共ホール現代ダンス活性化事業公演(金沢)

12 月:『W.i.f.e.』『IN SIDE OUT』福岡、高知公演

06 年 2 月:『gés』(新作)東京公演

3 月:『W.i.f.e.』『IN SIDE OUT』神戸、広島、山口公演、  
Co. 山田うん×いわき市民共同製作公演

【その他】

ブリュッセルでの国際共同製作、ワークショップ、  
山田うんによる外部団体への振付等

●Grant-receiving term

From 2005 to 2007

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 65 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

June: Europe Tour 2005 in Germany and the U.K.  
October and March: Performances in part of the  
Activation of Contemporary Dance in Public  
Theaters Project in Kanazawa and Kanagawa

December: Performances of *W.i.f.e.* and *IN SIDE OUT* in Fukuoka and Kochi

February: Premiere of *gés* in Tokyo

March: Performances of *W.i.f.e.* and *IN SIDE OUT*  
in Hyogo, Hiroshima and Yamaguchi

Co. Yamada Un co production and performance  
with citizens of Iwaki in Ibaragi

【Other projects】

International co production with YUKIKO  
SHIONOAKI (Deep Blue), Workshops, Un  
Yamada choreographs other projects, etc.



『SHOKU』ヨーロッパツアー・ドイツ公演 2005 年 10 月 撮影:ノン・高木  
SHOKU European Tour, Germany, October 2005. Photo: Non Takagi



黒田育世  
Ikuyo Kuroda

主宰: 黒田育世 (振付家・ダンサー)  
制作: 高樹光一郎

artistic director: Ikuyo Kuroda  
(choreographer, dancer)  
producer: Koichiro Takagi

[info@batik.jp](mailto:info@batik.jp)  
<http://batik.jp/>

●継続助成対象期間

2004 年度から 2006 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供(2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):83 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

5 月:『SHOKU』ロシア & マレーシアツアー

8 月:『SHOKU』シンガポールツアー

9 月:トライアル vol.2(森下スタジオ)

9-10 月『SHOKU』欧州ツアー (ドイツ、フランス、フィンランド)

11 月:『SHOKU』オーストラリアツアー

06 年 2 月:日豪交流年事業 BATIK & スプリンター  
共同振付作品公演(神奈川)

【その他】

黒田が振付家として Noism 05 Triple Bill に参加、  
『モニカモニカ vol.2』で吾妻橋ダンスクロッシング、  
踊りに行くぜに参加。

●Grant-receiving term

From 2004 to 2006

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥ 3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 83 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

May: SHOKU Russian & Malaysian Tour

August: SHOKU Singaporean Tour

September: Trial Performance vol.2 at Morishita Studio

October: SHOKU European Tour of Germany, France, and Finland

November: SHOKU Australian Tour

February: BATIK x DANCE NORTH/SPRINTER GROUP (Australia) *Underneath* in Kanagawa

【Other Activities】

July: Ikuyo Kuroda participates Noism 05 Triple Bill as a choreographer

August-November: Ikuyo Kuroda performs *Monica Monica vol.2* at Azumabashi Dance Crossing in Tokyo and We're Gonna go Dancing!! in Osaka etc.





『我が闘争』北九州公演 2006 年 2 月  
*Mein Kampf* in Kitakyushu (Fukuoka), February 2006.



ペーター・ゲスナー  
Peter Goessner

主宰: ペーター・ゲスナー (演出家)  
制作: 松尾容子

artistic director: Peter Goessner (director)  
producer: Yoko Matsuo

uzume@rio.odn.ne.jp  
<http://www.geocities.jp/uzumebb>

●継続助成対象期間

2003 年度から 2005 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度: 2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額: 3,000,000 円

スタジオ提供 (2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間): 14 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

4 月: 第 16 回公演『ねずみ狩り』東京、名古屋公演

6 月: 第 17 回公演『アンティゴネー』静岡公演

8-10 月: 第 18 回公演 秋旅公演『ねずみ狩り』レオンスとレーナ』福岡、宮崎、山口、京都、広島、長野、東京公演

06 年 1 月: 第 19 回公演『開かれたカップル』福岡公演

2-3 月: 第 20 回公演『我が闘争』福岡、東京、大阪公演

【その他】

7 月: ペーター・ゲスナーワークショップ (岡山)

06 年 3 月: ペーター・ゲスナーによるリーディング演出

●Grant-receiving term

From 2003 to 2005

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental (between June 2005 till May 2006): 14 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

April: Performances of Peter Turrni's *Shooting Rats* in Tokyo and Aichi

June: Performance of Sophocles's *Antigone* in Shizuoka

August-October: Performances of Peter Turrni's *Shooting Rats* & Georg Buechner's *Leonce and Lena* in Fukuoka, Miyazaki, Yamaguchi, Kyoto, Hiroshima, Nagano and Tokyo

January: Performance of Dario Fo's *The Open Couple* in Fukuoka

February-March: Performances of George Tabori's *Mein Kampf* in Fukuoka, Tokyo and Osaka

【Other projects】

July: Peter Goessner Workshop in Okayama

March: Reading session directed by Peter Goessner in Tokyo





『珍しいキノコ舞踏会〜シャルウィダンス?』東京公演 2005 年 11 月 撮影:片岡陽太  
KINOKO'S Ball ~ Shall we dance? in Tokyo, November 2005. Photo: Yohta Kataoka



伊藤千枝 撮影:David Duval-Smith  
Chie Ito. Photo: David Duval-Smith

主宰: 伊藤千枝 (振付家・ダンサー)  
制作: 大桶真

artistic director: Chie Ito (choreographer,  
dancer)

producer: Makoto Oooke

[mail@strangekinoko.com](mailto:mail@strangekinoko.com)

<http://www.strangekinoko.com>

●継続助成対象期間

2003 年度から 2005 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供 (2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):62 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

5 月:国立民族博物館特別展「きのうよりワクワクしてきた」にてパフォーマンス

10-11 月:東京都写真美術館企画展「恋よりどきどき コンテンポラリーダンスの感覚—アイステーション—」に展示作品「キノコスタジオ」を展覧および『珍しいキノコ舞踏会〜シャルウィダンス?』公演

06 年 3 月:『また、家まで歩いてく。』東京公演

【その他】

招聘事業、振付、出演、ワークショップ等多数。

●Grant-receiving term

From 2003 to 2005

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental (between June 2005 till May 2006): 62 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

May: Performance at The National Museum of Ethnology Exhibition "More Happy Every Day-Yippie!!!!!" in Osaka

October-November: Installation work "KINOKO STUDIO" and performance of KINOKO'S Ball ~ Shall we dance? shown at the Tokyo Metropolitan Museum of Photography Exhibition "Japanese Contemporary Dance Media 2005"

March: Performance of I'm walking to my home. in Tokyo

【Other projects and events】

Choreography for other projects, Workshops, etc.

現代演劇・舞踊助成——芸術創造活動Ⅱ

助成対象 5 件/助成総額 15,000,000 円

Contemporary Theater and Dance – Artistic Creativity Enhancement Program Ⅱ

5 Grantees/Total appropriations: ¥15,000,000

指輪ホテル[演劇/東京]  
Yubiwa Hotel [theater/Tokyo]

2004 年度より  
From 2004



『CANDIES – Girlish Hard Core –』イギリス公演 2006 年 1 月 撮影: 畑瀬邦彦  
CANDIES – Girlish Hard Core – in the U.K., January 2006. Photo: Kunihiro HATASE



羊屋白玉 撮影: 谷口雅彦  
Shirotama Hitsujiya. Photo: Masahiko Taniguchi

主宰: 羊屋白玉 (劇作家・演出家・俳優)  
制作: 佐藤道元

artistic director: Shirotama Hitsujiya  
(playwright, director, and actor)  
producer: Michimoto Satoh  
[michimoto@yubiawahotel.com](mailto:michimoto@yubiawahotel.com)  
<http://www.yubiawahotel.com>

● 継続助成対象期間

2004 年度から 2006 年度まで

● 2005 年度の助成内容

年度: 2005 年 4 月 1 日 – 2006 年 3 月 31 日

金額: 3,000,000 円

スタジオ提供 (2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間): 24 日間

● 2005 年度のおもな活動

【公演活動】

5 月 『CANDIES – Girlish Hard Core –』 プチレビュー 1 (森下スタジオ)

7 月 『Please Send Junk Food』 アサヒ・アート・フェスティバル・オープニング東京公演等

8 月 『Please Send Junk Food』 BEPPU PROJECT 共催大分公演

9 月 『CANDIES – Girlish Hard Core –』 プチレビュー 2 (森下スタジオ)

11 月 『Please Send Junk Food』 取手アートプロジェクト 2005 招聘公演

06 年 1 月 『CANDIES – Girlish Hard Core –』 ワークインプログレス・ファイナル in 横浜

1-2 月 『CANDIES – Girlish Hard Core –』 イギリス、ポーランド公演

【その他 (羊屋白玉によるワークショップ)】

6 月: 日本演出者協会主催「演劇大学 in 仙台」

9 月: 日本劇作家大会 in 長久手

11 月: 日本演出者協会主催「演劇大学 in 札幌」

12 月 – 06 年 3 月: エイブルアート・オンステージ参加事業『東京境界紀行』

06 年 1 月: 日本演出者協会「演劇大学 in 横浜」

● Grant-receiving term

From 2004 to 2006

● Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 – March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 24 days

● Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

May: Petit Preview 1 of CANDIES – Girlish Hard Core – at Morishita Studio

July: Performances of Please Send Junk Food in Tokyo

August: Performance of Please Send Junk Food cosponsored by BEPPU PROJECT in Oita

September: Petit Preview 2 of CANDIES – Girlish Hard Core – at Morishita Studio

November: Performance of Please Send Junk Food in Chiba

January: Work in progress final of CANDIES – Girlish Hard Core – in Kanagawa

January-February: Performances of CANDIES – Girlish Hard Core – in the U.K. and Poland

【Workshops by Shirotama Hitsujiya】

June: Japan Directors Association's Theater University in Sendai

September: Japan Playwrights Association's Congress 2005 in Nagakute, Aichi

November: Japan Directors Association's Theater University in Sapporo

December-March: Tokyo Borders Travel Sketch project (as an Able Art Onstage event)

January: Japan Directors Association's Theater University in Yokohama



『Ghostly Round』2005 年 2 月 撮影:永妻亜矢子  
Ghostly Round, February 2005. Photo: Ayako Nagatsuma



北村明子 撮影:永妻亜矢子  
Akiko Kitamura. Photo: Ayako Nagatsuma

主宰:布施龍一  
芸術監督:北村明子(振付家・ダンサー)  
executive director: Ryuichi Fuse  
artistic director: Akiko Kitamura  
(choreographer, dancer)

[info@leni-basso.com](mailto:info@leni-basso.com)  
<http://www.leni-basso.com/>

●継続助成対象期間

2004 年度から 2006 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供(2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):64 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

6-7 月『Ghostly Round』『Finks』ドイツ、フィンランド、スペイン、オランダ、オーストラリア公演

10 月『Finks』ノルウェー、スペイン公演

06 年 2-3 月『Elephant Rose』長野(初演)、兵庫、福岡公演

【海外共同製作】

9 月:フィラデルフィアのダンスカンパニー Group Motion からの委嘱作品『Rondo』世界初演

【その他】

9 月:東京芸術見本市ブース出展、ワークショップ(森下スタジオ)

06 年 2 月:北村明子、神奈川県民ホール 30 周年記念オペラ『愛の白夜』の舞踊シーンの振付、およびレニ・バッソのダンサーとともに出演

●Grant-receiving term

From 2004 to 2006

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥ 3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 64 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

June-July: 2006 European & Oceania Tour of *Ghostly Round* and *Finks* of Germany, Finland, Holland and Australia

October: *Finks* tour of Norway and Spain

February-March: *Elephant Rose* Japan Tour of Nagano (World Premiere), Hyogo, and Fukuoka

【International Collaboration Project】

September: World Premiere of *Rondo*, a work commissioned by Group Motion of Philadelphia

【Other Activities】

September: Presentation at the Tokyo Performing Arts Market

Workshop at Morishita Studio

February: Akiko Kitamura choreographs the dance scenes in an opera produced to celebrate the 30th anniversary of the opening of the Kanagawa Kenmin Hall in Yokohama entitled *White Nights* and performs with the dancers of Leni-Basso



『paradise lost, lost 〜うちやまつり後日譚〜』2005 年 撮影: 谷古字正彦  
paradise lost, lost, 2005. Photo: Masahiko Yakou



深津篤史  
Shigefumi Fukatsu

**主宰: 深津篤史 (劇作家・演出家)**  
**制作: 長谷川一馬**

artistic director: Shigefumi Fukatsu  
(playwright, director)

producer: Kazuma Hasegawa

caw75100@pop21.odn.ne.jp

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/5931>

● 継続助成対象期間

2003 年度から 2005 年度まで

● 2005 年度の助成内容

年度: 2005 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日

金額: 3,000,000 円

● 2005 年度のおもな活動

[公演活動]

5 月: 『海亀が微笑(わら) うよ』大阪公演

8 月: Osaka Short Play Festival 2005 Summer 参加

『緑の奴ら』(作・演出: 深津篤史) 大阪公演

桃園会 番外企画・観客参加エチュード (ウイングフィールドのりうち祭 2005 参加) 『決められない三人』大阪公演

9-10 月 『paradise lost, lost 〜うちやまつり後日譚〜』  
『断象・うちやまつり〜リーディング&ダンス・コラボレーション〜』兵庫、東京公演

[その他]

7 月: 深津篤史企画 戯曲塾 at ウイングフィールド (大阪)

● Grant-receiving term

From 2003 to 2005

● Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: January 1 - December 31, 2005

Grant: ¥ 3,000,000

● Major activities during fiscal year 2005

[Performances]

May: Performance of *Umigame ga warauyo* (The Sea Turtle Smiles) at the Osaka Contemporary Theater Festival

August: Performance of *Midori no Yatsura* (The Green Guys) at the Osaka Short Play Festival Summer 2005

Performance of *Kimerarenai Sannin* (Three Who Can't Decide) at the Wing Field Noriuchi Festival 2005 in Osaka

September-October: Performances of *paradise lost, lost* and *Danzou Uchiyamatsuri* (a reading and dance collaboration) in Hyogo and Tokyo

[Other Activities]

July: Playwriting seminar by Shigefumi Fukatsu at Wing Field in Osaka





『Moments』横浜ダンスコレクション R 公演 2006 年 1 月 撮影:塚田洋一  
Moments at "Yokohama Dance Collection R" Exhibition in Kanagawa, January 2006. Photo: Yoichi Tsukada



岩淵多喜子 撮影:塚田洋一  
Takiko Iwabuchi. Photo: Yoichi Tsukada

**主宰: 岩淵多喜子 (振付家・ダンサー)**  
artistic director: Takiko Iwabuchi  
(choreographer, dancer)

dt\_ludens@hotmail.com  
<http://members.tripod.co.jp/ludens/>

●継続助成対象期間

2003 年度から 2005 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度: 2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額: 3,000,000 円

スタジオ提供 2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間:  
146 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

7 月: 『Against Newton』トヨタコレオグラフィーアワード  
2005 "ネクステージ" (最終審査会)

9-10 月: 『Against Newton』、『Es (ビデオ版)』、『LUDENS  
& Cie Pascoli 共同ワーク』仏グルノーブル公演

06 年 1 月: 『Moments』(AIAV バージョン) 山口公演  
『Moments』神奈川公演 (横浜ダンスコレクション R 参加  
作品)

【ワークショップ】

4-5 月: オープンクラス (森下スタジオ)

6 月: 週末スペシャルワークショップ (森下スタジオ)

8 月: 夏季スペシャルワークショップ (東京)

9 月: 2 日間スペシャルワークショップ (東京)

10-12 月: オープンカンパニークラスおよびワークショップ  
(森下スタジオ)

06 年 3 月: 春季スペシャルワークショップ (森下スタジオ)

●Grant-receiving term

From 2003 to 2005

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥ 3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006):  
146 days

●Major activities during fiscal year 2005

【Performances】

July: Performance of *Against Newton* at the Toyota  
Choreography Award 2005 "nextage" in Tokyo

September-October: Performance of *Against  
Newton, Es (Video Version)*, and *LUDENS & Cie  
Pascoli Collaborative Work* in Grenoble, France

January: Performance of *Moments (Akiyoshidai  
Version)* in Yamaguchi

Performance of *Moments* at the "Yokohama Dance  
Collection R" Exhibition in Kanagawa

【Workshops】

April-May: Open Class at Morishita Studio

June: Weekend Special Workshop at Morishita  
Studio

August: Special Summer Workshops in Tokyo

September: Two-day Special Workshop in Tokyo

October-December: Open Company Class and  
Workshop at Morishita Studio

March: Special Spring Workshop in Morishita Studio



『迂回プリーズ』東京公演 2005 年 10 月 撮影:青木司  
Take A Roundabout Way, Pls. in Tokyo, October 2005. Photo: Tsukasa Aoki



井手茂太 撮影:長谷川豊弥  
Shigehiro Ide. Photo: Toyohiro Hasegawa

**主宰: 井手茂太 (振付家・ダンサー)**

**制作: 坪井香保里**

artistic director: Shigehiro Ide (choreographer)  
producer: Kahori Tsuboi

days@idevian.com

<http://www.idevian.com>

●継続助成対象期間

2003 年度から 2005 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供(2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):39 日間

●2005 年度のおもな活動

【公演活動】

5 月:『井手孤独[idésolo]』(井手茂太ソロ)東京公演

10 月:『迂回プリーズ』東京公演

12 月:ダンサー企画クリウム・ヴァニー『愛妓ハンバーク』東京公演(森下スタジオ)

【プロデュース公演】

06 年 3 月『JUNRAY DANCE CHANG』東京公演(振付:井手茂太、斉藤美音子、康本雅子、菅尾なぎさ/音楽:ASA-CHANG & 巡礼)

【その他】

井手茂太による外部振付多数

●Grant-receiving term

From 2003 to 2005

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 39 days

●Major activities during fiscal year 2005

[Performances]

May: Performance of *idésolo* In Tokyo

October: Performance of *Ukai Please* (Take A Roundabout Way, Pls.) in Tokyo

December: Performance of *Aigi Hamburg* by crewimburnny, a new group formed by the dancers of Idevian Crew, at Morishita Studio in Tokyo

[Produce Performance]

March: *JUNRAY DANCE CHANG* by Idevian Crew, Masako Yasumoto, etc., and ASA-CHANG & JUNRAY in Tokyo

[Other Activities]

Various choreography commissions and projects by Shigehiro Ide



## 特別助成 (国内) [非公募]

大阪の風土を題材にし、現代詩の理論的指導者だった故・小野十三郎の多彩な詩業を記念する一環として、全国の新しい現代詩の創造的な書き手たちを奨励していくことを目標とする大阪文学協会〈小野十三郎賞実行委員会〉主催の「第7回小野十三郎賞」に対して助成を行なった。

この他に、オペラ『じょうり』上演実行委員会、および神奈川芸術文化財団によるふたつのオペラ作品の上演に対しても支援した。前者は、作曲家の三木稔とコリン・グラハムの共作オペラとして以前セントルイス・オペラ劇場で世界初演(英語上演)された『じょうり』の日本語版の東京公演を実現。有志が集まって資金を集め、製作を行ない、公演を実現したというのは、少なくとも日本のオペラ界では稀であり、画期的なプロジェクトだったと言える。後者は、外交官・杉原千畝が第二次世界大戦前夜のリトアニアで行なった人道的活動を題材にした『愛の白夜』(作曲:一柳慧、台本:辻井喬)を上演。5年間の制作期間をかけて創られた同作品は、「耳できいてわかる台本」と、多彩かつ受け入れやすい音楽を目指し、さらに当財団で長年支援しているレニ・バasso(芸術監督:北村明子)によるコンテンポラリー・ダンスとのコラボレーションも取り入れられ、好評を博した。

また2005年12月24日がソ連の映画監督、セルゲイ・エイゼンシュテインの世界的名画『戦艦ポチョムキン』の初公開80周年に当たることを記念してエイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)が当日に東京で開催した「『戦艦ポチョムキン』80周年記念 シネマ&レクチャー」に対しても助成を行なった。

## 特別助成 (国内) [非公募]

助成対象4件/助成総額 4,600,000円

エイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)  
『戦艦ポチョムキン』80周年記念 シネマ&レクチャー  
2005年12月24日、2006年1月14日  
東京(岩波シネサロン、ブロードメディア試写室)  
400,000円

社団法人大阪文学協会〈小野十三郎賞実行委員会〉

第7回小野十三郎賞

2005年4月1日ー11月26日

大阪

200,000円

オペラ『じょうり』上演実行委員会

セントルイス・オペラ劇場との共同制作による  
オペラ『じょうり』日本語による日本初演

2005年9月21日ー9月25日

東京(シアター1010)

1,000,000円

財団法人神奈川芸術文化財団

神奈川県民ホール開館30周年記念

オペラ『愛の白夜』3幕5場 世界初演

2006年2月24日、26日

神奈川(神奈川県民ホール大ホール)

3,000,000円

## Special Project Support Program (national) [designated fund program]

A grant was given to the Ono Tosaburo Award Committee of the Osaka Bungaku Kyokai (Osaka Literature Association) for The Seventh Ono Tosaburo Award, an award established to celebrate the colorful career of Tosaburo Ono, the theoretical leader of modern poetry, and given to support new and creative contemporary poets throughout Japan.

Two other projects supported by this program were opera performances. Committee for Performing the Opera *Joruri* gave a performance of the Japanese version of *Joruri* in Tokyo, a collaboration between two composers, Minoru Miki and Colin Graham, which was originally world premiered (in English) at the Opera Theater of St. Louis. It is an uncommon and remarkable project at least in the opera scene in Japan, in that volunteers worked together to raise funds, and produced and carried out the performance. Kanagawa Arts Foundation produced *White Nights* (composed by Toshi Ichianagi and written by Takashi Tsujii), an opera based on the humanitarian work by Japanese diplomat Chiune Sugihara in Lithuania just before the outbreak of World War II. After five years of preparation, this opera was favorably appreciated as those involved in it aimed to create a script that could be “easily understood by the ear”, as well as colorful and pleasing music. The opera was also noted for its collaboration with the contemporary dance company Leni-Basso

(artistic director Akiko Kitamura), which the Saison Foundation has been supporting for many years.

The program also supported Eisenstein Cine-Club (Japan) to hold a event called ‘Cinema & Lecture Celebrating the 80th Anniversary of *Battleship Potemkin*’ in Tokyo on 24 December 2005 to commemorate the premiere of the world-famous film *Battleship Potemkin* by the Russian director Sergei Eisenstein that took place in Moscow eighty year ago to the day.

## Special Project Support Program (national) [designated fund program]

4 Grantees/Total appropriations: ¥4,600,000

Committee for Performing the Opera *Joruri*  
Japanese Premiere of the Opera *Joruri*  
Co-produced with the Opera Theatre of St. Louis

September 21 – September 25, 2005

Tokyo (Theatre 1010)

¥1,000,000

Eisenstein Cine-Club (Japan)  
the 80th Anniversary of “*Battleship Potemkin*”: Cinema & Lecture  
December 24, 2005 and January 14, 2006  
Tokyo (Iwanami Cine Salon, Broadmedia Screening Room)  
¥400,000

Kanagawa Arts Foundation  
Opera *White Nights*  
February 24 and 26, 2006  
Kanagawa (Kanagawa Kenmin Hall)  
¥3,000,000

Ono Tosaburo Award Committee  
The Seventh Ono Tosaburo Award  
April 1 – November 26, 2005  
Osaka  
¥200,000



エイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)「『戦艦ポチョムキン』80周年記念 シネマ&レクチャー」東京 2005年12月  
Cinema & Lecture on the 80th Anniversary of “*Battleship Potemkin*” organized by Eisenstein Cine-Club (Japan) in Tokyo, December 2005

## II

## 国際交流プログラム International Programs

## II-1. 知的交流 Intellectual Exchange Programs

## 現代演劇・舞踊助成——知的交流活動

国際会議・シンポジウムの開催、翻訳出版などを通して日本の現代演劇・舞踊芸術の国際化を促進する事業に対して助成をする本プログラムでは、今年度2件の事業に対して助成した。

助成2年目にあたる日露演劇会議が実施したロシア国立オムスク大学「日本文化講座」は、今年度の講師に劇団昂演劇研究所所属で演出家・戯曲家の松本永実子を派遣。演劇の祝祭性をテーマに日露演劇の共通点、相違点を考察する講座が行なわれた。初年度の成功から、今回はオムスク国立教育大学でも講座を実施。06年にはさらに同国立農業大学でも講座を行なうことが決定し、事業のますますの拡がりが期待される。

特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センターによる『七人みさき』多国語版公演は、70年代戯曲の名作とされる、秋元松代の同作を英語翻訳し、アジア11カ国の俳優たちによる、それぞれの母国語での上演を試みた。演出にあたったのは、インドから招聘されたThe Companyの芸術監督、ニールム・マンシン・チャウドゥリー。経済成長の中、土地の因習や開発に翻弄される人間たちの様子が、現代アジアに共有する問題として伝わる実験的な舞台となった。

## 現代演劇・舞踊助成——知的交流活動

助成対象2件/助成総額: 1,550,000円

特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター

秋元松代作『七人みさき』多国語版公演(国際芸術カーニバル 2006 演劇プログラム)

2006年2月22日-2月26日

東京、京都(国際交流基金フォーラム、アートコンプレックス 1928)

1,000,000円 スタジオ提供 17日間

日露演劇会議

ロシア国立オムスク大学での第二回「日本文化講座」実施

2005年5月4日-5月14日

オムスク(国立オムスク大学オムスク国立教育大学) 550,000円

## Contemporary Theater and Dance – Intellectual Exchange Program

The aim of this program is to improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the world's performing arts community by supporting international conferences, symposia, and translation and publishing projects related to the above two fields of performing arts. In 2005, the program supported two projects.

Following the previous year, Japan Russia Theatre Forum again received a grant and held a Japanese Cultural Studies course at Omsk State University, Russia. This year, director and playwright Emiko Matsumoto of the Subaru Theatrical Arts Research Department gave a lecture on festiveness in theater while comparing the similarities and differences between Russian and Japanese drama. Following the first year's success, the course was also held at Omsk State Pedagogical University this year. Further developments of the course are expected, including the addition of lectures at Omsk State Agricultural University in 2006.

Pacific Basin Arts Communications presented *To Soothe Seven Spirits* in multiple languages. Written by Matsuyo Akimoto and known as one of the most celebrated dramas of the 1970's, it was translated on this occasion into English, and was performed by actors from eleven Asian countries in their respective native languages. The director of the play was Neelam Mansingh Chowdhry, the artistic director of The Company, who was invited from India. It turned out to be an experimental piece of work that depicted people being baffled by local conventions and land development issues within a society of economic growth, presenting it as a common problem throughout Asia today.

## Contemporary Theater and Dance – Intellectual Exchange Program

2 Grantees/Total appropriations: ¥1,550,000

Japan Russia Theatre Forum

Second Session of Seminar on Japanese Culture at Omsk State University, Russia

May 4 – May 14, 2005

Omsk (Omsk State University, Omsk State Pedagogical University)

¥550,000

Pacific Basin Arts Communications

*To Soothe Seven Spirits* (Poly-national Arts Carnival 2006)

February 22 – February 26, 2006

Tokyo, Kyoto (The Japan Foundation Forum, Art Complex 1928)

¥1,000,000 Studio Rental: 17 days

## 翻訳出版助成[非公募]

日本の社会科学および人文科学などに関する文献を海外に継続的に紹介する活動を支援する本プログラムではドイツでの翻訳出版事業に助成が行なわれた。

ミュンヘンに拠点を置く出版社ユディツィウム社(iudicium Verlag GmbH)は、当財団の助成を受けて1999年度から2003年度までの5年間にわたって日本の社会科学、人文科学の著作をシリーズとしてドイツ語に翻訳出版し、2004年度からは3年間にわたる第2期が開始された。第2期初年度に選ばれた森嶋通夫著『日本にできることは何か——東アジア共同体を提案する』が2005年1月に、また久保田展弘著『日本多神教の風土』が2006年2月にそれぞれ刊行された。

さらに第2期2年度目に選ばれた今道友信著『エコエティカ 生圏倫理学入門』は2006年夏に刊行予定佐和隆光著『日本の「構造改革」——いま、どう変えるべきか——』は2006年中に翻訳が完成する予定。なお、第1期に選ばれ、翻訳作業が進められていた井筒俊彦著『意識と本質』は2006年4月に刊行された。

#### 翻訳出版助成[非公募]

助成対象 1 件/助成総額 2,000,000 円

iudicium Verlag GmbH

日本の現代社会に関する著書 2 冊を独語へ翻訳・出版(第 2 期・2 年目)

2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

ミュンヘン  
2,000,000 円

#### Translation/Publication Project Program [designated fund program]

This program provides financial assistance to multi-year projects aimed to introduce Japanese social science and humanities to other languages and cultures. In 2005, grants were awarded to translation and publishing projects that took place in Germany.

iudicium Verlag GmbH, a publishing company based in Munich, completed a five-year series to translate and publish works of social science and humanities by Japanese authors from 1999 to 2003 with the support from the Saison Foundation, and started a new three-year series from 2004. Michio Morishima's *What Can Japan Do - Proposing an East Asian Community* and

Nobuhiro Kubota's *The Japanese Climate of Polytheism* were published in January 2006 and in February 2006 respectively, both of which had been selected for the first year's project of the second series.

Chosen for the second year of the series were Tomonobu Imamichi's *Eco-ethica: An Introduction to Eco-Ethics* and Takamitsu Sawa's *The "Reformation" of Japan - How to change it now*. The former will be published in the summer 2006, while the latter will be translated into German by the end of 2006. Toshihiko Izutsu's *Consciousness and Reality*, which had been chosen for the first series and was in the process of translation during 2005, was published in April 2006.

#### Translation/Publication Project Program [designated fund program]

1 Grantee/ Total appropriation: ¥2,000,000

iudicium Verlag GmbH

Translation and publishing of two titles on contemporary Japanese society into German

April 1, 2005 - March 31, 2006

Munich  
¥2,000,000



iudicium Verlag GmbH 久保田展弘著作の独語訳出版  
Cover of a book by Nobuhiro Kubota published by iudicium Verlag GmbH of Munich.

## II-2. 芸術交流 Artistic Exchange Programs

### 現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動 I: プロジェクト支援

このプログラムでは、国際間での相互理解を推進する日本の現代演劇・舞踊の海外公演、招聘受け入れ公演、国際共同創造事業に対して、森下スタジオの貸与を行なっている。今年度は 4 件の事業が森下スタジオを稽古場や作品発表の場として使用した。

サンフランシスコを拠点にするシアター・オブ・ユージェンは、幽玄のもつ要素を追求し、能と狂言の規律と美意識を基礎とした創作に挑戦する演劇集団。今回のプロジェクトでは、アメリカ先住民と能の融合を目指した公演のための稽古を実施。作品は、愛知と東京で上演された。日本とアメリカの制作方法の違いに混乱もあったようだが、2,000 人以上の観客を動員し、「インディアンの歌や太鼓、笛と、能楽の囃子が交互に奏でられ、観客は斬新な

舞台演出に魅せられていた」という新聞評、観客からは「死者が甦ってきて話すという能のスタイルがこのような形でアメリカ先住民の世界と融合していることが新鮮に感じられた」などの反応を得ることができたという報告を受けている。

パパ・タラフマラは、ガルシア=マルケスの小説『百年の孤独』をモチーフに創作された『HEART of GOLD ——百年の孤独』を、日本、アメリカ、ブラジルの 3 か国間の共同創作事業として制作した。本作品は、パパ・タラフマラの設立時からの構想であり、設立から 25 年近くを経ての実現となった。ダンス、演劇、美術、音楽など、あらゆる舞台芸術の要素がダイナミックに織り込まれた本作品は 1 年半をかけて各地でのワークショップを繰り返しながら制作され、ジャンルにとらわれず多彩な舞

台芸術の可能性を追求し続け、海外との交流も積極的に行なってきたパパ・タラフマラならではの代表作品となった。海外招聘の打診も受けており、今後の展開が待たれる。

ユディ・タジュディン&テアトル・ガラシワークショップは、宮城聰率いるク・ナウカ シアターカンパニーが、インドネシアのジョクジャカルタを拠点に活動するユディ・タジュディンと彼が芸術監督を務める劇団を招聘し、テアトル・ガラシの作品『ワクトゥ・パトゥ〜百代の过客〜』の上演とふたつの劇団の共同作業による新作『ムネモシユネの贈りもの〜「記憶」をめぐる物語〜』の創作と上演を目的とするプロジェクト。森下スタジオでは、テアトル・ガラシの作品を上演し、その豊かな創造力で観客を魅了した。新作の創作最中にジャワ島地震が発生し、テアトル・ガラシの稽古場兼事務所が

倒壊との一報が入り、一時は公演を中止することも検討された。しかし、「地震の復興はもつともとはるかに時間のかかる仕事だ。だから、『ムネモシユネ』を完成させるといふ仕事をなし終えたあとでジョグジャに帰って地域のために働くことで、地域社会の一員としての責任も果たすことが出来るだろう。自分たちは『ムネモシユネ』にも責任があり、両方の責任を果たせる道を選択したい」（ク・ナウカのホームページより）というユディ・タジュディン氏の決断があつて共同創作による新作の公演が実現した。困難を乗り越え、双方の劇団がもつそれぞれの文化的要素が混じりあう、刺激的な作品となった。

ク・ナウカシアターカンパニーでは、同劇団のホームページでガラシの稽古場復興のための募金活動「ガラシケイコバエイド」を行なった（<http://www.kunauka.or.jp/>）。

#### 現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動 I: プロジェクト支援 助成対象 4 件

##### ■海外公演

コンドルズ  
コンドルズ マニラツアー  
2006 年 6 月 20 日ー 6 月 25 日  
フィリピン（マニラ）  
スタジオ提供 34 日間

##### ■共同制作

ク・ナウカシアターカンパニー  
ユディ・タジュディン & テアトル・ガラシワーク  
ショップ  
2006 年 4 月 19 日ー 4 月 30 日  
東京（森下スタジオ）  
スタジオ提供 12 日間

シアター・オブ・ユーゲン  
エリック・エン作 土居由里子演出『ラコタの月』  
—— アメリカン先住民と能のフュージョン  
2005 年 9 月 6 日ー 9 月 11 日  
愛知、東京（愛・地球博グローバル・コモン 2、同  
Expo ホール、シアター X）  
スタジオ提供 7 日間

パパ・タラフマラ  
日米伯 3 カ国コラボレーション『HEART of  
GOLD —— 百年の孤独』公演  
2005 年 12 月 2 日ー 12 月 15 日  
山口、東京、茨城（山口情報芸術センター、世田  
谷パブリックシアター、つくばカピオホール）  
スタジオ提供 25 日間

**Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Program (studio awards)** program awards priority use of the rehearsal facilities at Morishita Studio to projects that will contribute to promoting mutual understanding between Japan and other cultures, such as international tours by contemporary Japanese theater and dance companies, performances in Japan by foreign performing artists, and international collaboration projects. In 2005, the following four awarded projects used Morishita Studio for rehearsals and/or performances of new works.

Based in San Francisco, **Theatre of Yugen** seeks the essence of *yugen* (mystic beauty) and to create original works based on the order and esthetic sense of Noh and Kyogen. This program allowed them to have rehearsals at Morishita Studio in prior to the performances that aimed to combine the arts of Noh and Native Americans. The play was staged in Aichi and Tokyo. Despite some confusion due to the differences between Japanese and U.S. production systems, the performance attracted an audience of more than 2,000 people. The reported reactions include a newspaper review saying “Indian songs, drums, and flute were played alternately with Noh music and the audience was fascinated by the novel style of the performance,” and a comment by an audience member who said that “it was amazing to see how the style of Noh, in which the dead are brought back to life and able to speak, could be combined with the world of native Americans in this way”.

Pappa TARAHUMARA produced *HEART of GOLD: One Hundred Years of Solitude*, which is based on the novel by

Gabriel Garcia Marquez, as an international collaboration project among Japanese, American, and Brazilian artists. It took nearly twenty-five years until the realization of the project, which was conceived at the same time as the company was founded. Workshops were held at various cities during a year and a half to create a play dynamically woven up from various factors of the performing arts, such as dance, theater, visual arts, and music. The work finally appeared as a masterpiece by Pappa TARAHUMARA, which has sought for unlimited possibilities of the performing arts beyond the boundary of genres and has actively communicated with performing arts communities in other countries. Further development of this work is expected as they have received tour offers from abroad.

The Yudi Tajudin & Teater Garasi Workshops is a project by KU NA'UKA Theatre Company, led by Satoshi Miyagi, which invited Yudi Tajudin, who is based in Jogjakarta, Indonesia, and his theater company. The specific aim of the project was to present *Wakutu Batu #3*, a drama by Teater Garasi, to Japanese audiences and the creation and staging of a new work by the two companies entitled *Mnemosyne*. *Wakutu Batu #3* was shown at Morishita Studio and enchanted the audience with its abundant creativity. While they were preparing for *Mnemosyne*, they received reports that the studio and office of Teater Garasi had collapsed in the earthquake in Java, which led them to consider cancelling the scheduled performances. Yudi Tajudin, however, decided to carry out the performance of their new collaboration work. According to the KU NA'UKA website,



Theatre of Yugen『ラコタの月』——アメリカン先住民と能のフュージョン「愛知公演」2005 年 9 月  
“Native American and Noh Fusion Production *Moon of the Scarlet Plums*” by Theatre of Yugen, in Aichi, September 2005.

Tajudin said: "Recovery from the earthquake damage requires far more time. We will be able to fulfill our responsibility as members of our community when we return to work for Jogjakarta after finishing the performance of *Mnemosyne*. We are responsible for *Mnemosyne* as well, and I'd like to choose to fulfill the both responsibilities". In spite of the difficulties they faced, Teater Garasi and KU NA'UKA presented an exciting drama in which the cultural elements of both companies blended perfectly.

KU NA'UKA Theater Company has organized Garasi Rehearsal Space Aid, a fund-raising campaign for the reconstruction of Garasi's studio (see <http://www.kunauka.or.jp/> for details).

### Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Program (studio award)

4 Awardees

#### ■ touring projects

Condors  
Condors Manila Tour 2006  
June 20 – June 25, 2006  
Manila  
Studio Rental: 34 days

#### ■ international collaboration projects

KU NA' UKA Theatre Company  
Yudi Tajudin & Teater Garasi Workshop  
April 19 – April 30, 2006  
Tokyo (Morishita Studio)  
Studio Rental: 12 days

Pappa TARAHUMARA  
Japan-U.S.-Brazil Collaboration *HEART of GOLD: One Hundred Years of Solitude*  
December 2 – December 15, 2005  
Yamaguchi, Tokyo, Ibaraki (YCAM, Setagaya Public Theatre, Tsukuba Capio Hall)  
Studio Rental: 25 days

Theatre of Yugen  
Native American and Noh Fusion  
Production *Moon of the Scarlet Plums*  
Written by Erik Ehn, directed by Yuriko Doi  
September 6 – September 11, 2005  
Aichi, Tokyo (Global Common 2 and Expo Hall at the Aichi Expo, Theater X)  
Studio Rental: 7 days

現代演劇・舞踊助成 ― 芸術交流活動 II: 継続プロジェクト支援  
この助成金は、地方自治体を中心とした活動を行っているカンパニーが主催する2年以上3年以内の国際交流プロジェクトに対して最長3年にわたって助成金が支給され、さらに希望があれば、森下スタジオ使用の優先権が付与

されるプログラム。今年度は、昨年度からの継続が2件、新規1件を採択した。

新規の採択となったのは、ニブロールを主宰する振付家/ダンサーの矢内原美邦の個人プロジェクト。2005年から2007年にかけて、オーストラリア、台湾のアーティストと個人の作家同士として交流事業を展開していく企画である。2005年度は、オーストラリアの振付家/ダンサーのジョー・ロイドと作品を創作。日本とオーストラリアで発表した。

劇団解体社による国際コラボレーション『夢の体制』は、これまで2年間にわたって行ってきたワークショップの集大成として『『世界の多様性を祝福するような』未来への可能性を秘めた舞台に結実させる』ことを目的に、舞台作品として12月に国際交流基金フォーラムで公演を実施した。最終年度となる次年度には再び本プロジェクトの出発地であるカーディフのチャプター・アートセンターに戻り、作品をさらに発展させていく計画だ。

舞踊資源研究所の国際共同制作ダンス・プロジェクト「気配の探求」III「森の物語」は、昨年より参加国が増え、オランダ、アメリカ、ロシア、セルビア・モンテネグロ、インドネシア、チェコ、日本の8カ国12人のダンサーとともに、山梨県の白州での共同生活を経て、武蔵野市の協力のもと、今年度も井の頭公園で実施された。公園の会場使用については、これまで前例がないこともあって、近隣の住民たちからは賛否さまざまな反応が出てきたそう。一方で昨年以上の観客動員を得ることになり、いろいろな側面から、今後の対応策が必要になってきている。これまでダンスに接点がなかった人々を巻き込む貴重な機会でもあるので、ねばり強く理解を求めていく方策を探って欲しい。

exchange. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. In 2005, one project was chosen as a grantee in addition to two continuing since the previous year.

Dancer and choreographer Mikuni Yanaihara, who is the artistic director of the dance company Nibroll, was newly awarded a grant this year. Yanaihara plans to carry out an exchange project on a personal level with artists in Australia and Taiwan, from 2005 to 2007. In the first year of her project, she collaborated with an Australian dancer and choreographer Jo Lloyd and gave performances in both Japan and Australia.

*Dream Regime* is an international collaboration project conducted by Gekidan Kaitaisha with the aim to suggest the possibility of a future that can "celebrate the diversity of the world", and a new work of the same name was shown at the Japan Foundation Forum in December 2005. Next year, which will be the last of their grant-receiving term of this program, they are going back to Chapter Arts Centre in Cardiff, Wales, where the project originated, for further developments of this work.

An international dance collaboration project *In Search of Subtle Presence III: Forest Story & Other Performances* by Dance Resources on Earth, received artists from more countries than the previous year with twelve dancers from eight countries – the Netherlands, the U.S., Russia, Serbia-Montenegro, Indonesia, the Czech Republic, and Japan – who lived together in Hakushu in Yamanashi Prefecture, working on a piece that was later performed at Inogashira Park in Tokyo in cooperation with Musashino City, where the park is located in. Partly because it was rare to hold a dance performance in the park, the performance provoked both positive and negative reactions from residents living nearby. On the other hand, it received a larger audience than last year and therefore adequate measures should perhaps be needed in the future from various aspects. Since this is a good chance to get people interested in dance, especially those who have never had any contact with it in the past, persistent measures need to be taken in order to gain the understanding of the local community.

Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Program – For international exchange projects  
This program awards grants to international exchange projects that will take place for more than two years and will be completed within three by Japanese performing companies who are playing an important role in promoting international

現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動Ⅱ：継続プロジェクト支援

助成対象3件/助成総額7,400,000円

Contemporary Theater and Dance – Creative Exchange Grant Program – For Long-Term Projects

3 Grantees/Total appropriations: ¥7,400,000

矢内原美邦[舞踊/神奈川]

Mikuni Yanaihara [dance/Kanagawa]

2005年度より

From 2005



日本・オーストラリア ダンスアート  
交流パフォーマンス in ギャラリー  
『パブリック=アン+パブリック』神奈  
川、メルボルン公演 2005年  
Japan and Australia Dance Art  
Exchange Performance in Gallery  
*public=un+public* in Kanagawa  
and Melbourne, 2005.



矢内原美邦  
Mikuni Yanaihara

●継続助成対象期間

2005年度から2006年度まで

●2005年度の助成内容

年度:2005年4月1日ー2006年3月31日

金額:1,400,000円

●2005年度のおもな国際交流活動

日本・オーストラリア ダンスアート交流パフォーマンス in ギャラリー『パブリック=アン+パブリック』神奈川、メルボルン(BankART 1929, Forty Five Downstairs)

●Grant-receiving term

From 2005 to 2006

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 – March 31, 2006

Grant: ¥1,400,000

●Major activities during fiscal year 2005

Japan and Australia Dance Art Exchange Performance in Gallery *public=un+public* Kanagawa, Melbourne (BankART 1929, Forty Five Downstairs)

主宰: 矢内原美邦 (振付家・ダンサー)

artistic director: Mikuni Yanaihara  
(choreographer, dancer)

mikuni@nibroll.com

<http://www.nibroll.com/>





『夢の体制』東京公演 2005 年  
撮影:宮内勝  
*Dream Regime, Tokyo, 2005.*  
Photo: MIYAUCHI Katsu



清水信臣  
Shinjin Shimizu

主宰:清水信臣(演出家)

制作:秦 岳志

artistic director: Shinjin Shimizu  
company manager: Takeshi Hata

gekidan@kaitaisha.com  
<http://www.kaitaisha.com/>

●継続助成対象期間

2004 年度から 2006 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度:2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

金額:3,000,000 円

スタジオ提供(2005 年 6 月から 2006 年 5 月までの期間):7 日間

●2005 年度のおもな国際交流活動

『夢の体制』プロジェクト

東京(国際交流基金フォーラム、森下スタジオ、Free Space カンバス)

●Grant-receiving term

From 2004 to 2006

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 - March 31, 2006

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2005 till May 2006): 7 days

●Major activities during fiscal year 2005

[*Dream Regime* Project]

Tokyo (Japan Foundation Forum, Morishita Studio, Free Space CANVAS)



「国際共同制作ダンスプロジェクト『気配の探求』Ⅲ『森の物語』および他公演」  
井の頭公園（東京）2005 年 撮影：  
木幡和枝  
International Dance Project <In  
Search of Subtle Presence> work III  
*Forest Story* & other performances,  
at Inogashira Park in Tokyo, 2005.  
Photo: Kazue Kobata



田中 泐  
Min Tanaka

主宰：田中泐  
制作：斎藤朋  
artistic director: Min Tanaka  
company manager: Tomo Saito  
artcamp@sf7.so-net.ne.jp  
<http://www.min-tanaka.com/>

●継続助成対象期間

2004 年度から 2006 年度まで

●2005 年度の助成内容

年度：2005 年 4 月 1 日－ 2006 年 3 月 31 日

金額：3,000,000 円

●2005 年度のおもな国際交流活動

国際共同制作ダンスプロジェクト『気配の探求』Ⅲ『森の物語』および他公演  
東京（井の頭公園）

●Grant-receiving term

From 2004 to 2006

●Details on support during fiscal year 2005

Fiscal year: April 1, 2005 – March 31, 2006

Grant: ¥ 3,000,000

●Major activities during fiscal year 2004

International Dance Project <In Search of Subtle Presence> work III *Forest Story* & other performances  
Tokyo (Inogashira Park)

現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動 F:  
日仏舞踊交流

昨年度「フランス・ダンス・03」<sup>註)</sup>より受け入れた寄附金をもとに、2005年から2007年までの期間限定で開設された、日仏間のダンス交流の促進を目的としたプログラム。初年度は、3件の助成が決定した。

ディディエ・テロンは、モンペリエを拠点とする振付家/ダンサーで、これまで京都や静岡で公演やワークショップを実施しておりその評判が高かったにもかかわらず、東京で公演活動を実施したことがなかった。今回、京都を拠点とするダンスカンパニー、モノクロームサーカスが受入団体となり、東京公演とワークショップを企画した。ディディエ・テロン振付・出演による『ラスコリニコフの肖像』、テロンが振付し、モノクローム・サーカスが出演した『借家人』を上演した。

国立サーカス芸術学校を卒業し、アートとサーカス、またはニューテクノロジーと現代美術を横断する舞台を追求する振付家/ダンサーのジャン＝バティスト・アンドレは、04年に出演した第10回神奈川国際芸術フェスティバル コンテンポラリー・アーツ・シリーズ『イリス』の稽古場所が山口情報芸術センター（運営：財団法人山口市文化振興財団）であったことをきっかけに、同財団にレジデンスアーティストとして招聘され、同地で『HIDDEN FACES/

FACES CACHÉES/ 隠された面』を、日本人の音楽家、映像作家と共に共同制作、森下スタジオで東京公演を実施した。

パリを拠点に活躍するミエ・コカンポー（K622 company）は、2006年にフランスと日本で上演予定の日本人音楽家とのコラボレーション3作品の稽古のために森下スタジオに滞在制作し、途中経過を関係者に向けて公開した。

註) 2003年度、日本全国で開催された、フランスのコンテンポラリー・ダンスを紹介するフェスティバル。主催はフランス外務省 AFFA、フランス大使館、朝日新聞社、フランス・ダンス・03 実行委員会。

現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動 F:  
日仏舞踊交流  
助成対象3件/助成総額: 1,400,000 円

K622 company  
『SIMPLY if possible...』  
2004年7月1日ー2006年9月30日  
東京、京都、山口、福岡（森下スタジオ、愛知芸術センター、京都芸術センター、スパイラルほか）  
スタジオ提供9日間

Monochrome Circus  
『ディディエ・テロンの世界』  
2005年8月26日ー9月4日  
京都、東京（京都芸術センター、森下スタジオ）  
500,000 円 スタジオ提供6日間

財団法人山口市文化振興財団  
『ジャン＝バティスト・アンドレ HIDDEN FACES/FACES CACHÉES/ 隠された面』  
2005年9月2日ー10月9日  
山口、東京（山口情報芸術センター、森下スタジオ）  
900,000 円 スタジオ提供9日間

Contemporary Theater and Dance –  
Franco-Japanese Dance Exchange

This program was started with a donation received in 2004 from the 'france danse 03' project\*, with the aim to promote dance exchange between France and Japan. It will be operated only from 2005 to 2007. In 2005, three projects were awarded grants.

Didier Théron is a dancer and choreographer based in Montpellier. Though he had held workshops and performances in Kyoto and Shizuoka that had been received well, he had never performed in Tokyo. On this occasion, the Kyoto-based dance company Monochrome Circus invited him and produced his workshops and performances in Tokyo. They presented *Autoportrait Raskolnikov*, choreographed and performed by Didier Théron, and *Les locataires*, choreographed by Théron and performed by Monochrome Circus.

Jean-Baptiste André is a dancer and choreographer who graduated from the Centre National des Arts du Cirque and seeks to cross the boundaries among visual art and circus, or new technology and contemporary art. In 2004 he played a part in *IRIS*, a work that was presented at the Contemporary Arts Series of the 10th International Arts Festival in Kanagawa. As the rehearsals of *IRIS* took place at Yamaguchi Center for Arts and Media (YCAM, operated by Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion), YCAM invited him as a residency artist in



Monochrome Circus『ディディエ・テロンの世界』京都、森下スタジオ 2005年8-9月  
The World of Didier Théron organized by Monochrome Circus in Kyoto and at Morishita Studio, August-September 2005.



財団法人山口市文化振興財団『ジャン＝バティスト・アンドレ HIDDEN FACES/FACES CACHÉES/ 隠された面』森下スタジオ公演 2005年10月  
Jean-Baptiste André, HIDDEN FACES/FACES CACHÉES/KAKUSARETA MEN organized by Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion at Morishita Studio, October 2005.

2005. There he worked on *HiDDEN FACES / FACES CACHÉES / KAKUSaRETA MEN* in collaboration with a Japanese musician and a media artist, which was also shown at Morishita Studio in Tokyo.

Paris-based dance artist Mié Coquempot did a residency at Morishita Studio, which included rehearsals and a private work-in-progress showing for three pieces in collaboration with Japanese musicians, which are planned to be shown in both France and Japan in 2006.

\* A festival held throughout Japan in 2003 to promote contemporary French dance, sponsored by the French Ministry of Foreign Affairs, Association Française d'Action Artistique (AFAA), the Embassy of France in Japan, Asahi Shimbun, and the France danse 03 Committee.

**Contemporary Theater and Dance – Franco-Japanese Dance Exchange**  
3 Grantees/ Total appropriations: ¥1,400,000

**K622 company**  
*SIMPLY if possible*  
July 1, 2004 – September 30, 2006  
Tokyo, Kyoto, Yamaguchi, Fukuoka (Morishita Studio, Aichi Arts Center, Kyoto Arts Center, etc.)  
Studio Rental: 9 days

**Monochrome Circus**  
*The World of Didier THERON*  
August 26 – September 4, 2005  
Kyoto, Tokyo (Kyoto Arts Center, Morishita Studio)  
¥500,000 Studio Rental: 6 days

**Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion**



Monochrome Circus『ディディエ・テロンの世界』京都、森下スタジオ 2005年8-9月  
*The World of Didier THERON* organized by Monochrome Circus in Kyoto and at Morishita Studio, August-September 2005.

**Jean-Baptiste André, *HiDDEN FACES/FACES CACHÉES/KAKUSaRETA MEN***

September 2 – October 9, 2005  
Yamaguchi, Tokyo (Yamaguchi Center for Arts and Media, Morishita Studio)  
¥900,000 Studio Rental: 9 days

#### 芸術交流活動【非公募】

本プログラムでは、海外の非営利団体との継続的なパートナーシップによる日本文化の紹介事業や文化交流活動を支援する。

当財団は 1989 年度より、ニューヨークに本部を置く**アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)**が日米の芸術家、学者、専門家、機関のために行なっている相互的フェローシッププログラム「日米芸術交流プログラム」に対して支援を行なっている。当財団からの 2004 年度の助成金が充当された 2005 年度には、ダンス批評家の武藤大佑、バリ仮面舞踊家の小谷野哲郎、美術作家の奥村雄樹と横野健一、俳優の朴昭熙の五氏による渡航・滞在プロジェクトが実施された。また、2005 年度に支給された助成金は、同交流プログラムの 2006 年度の助成対象に選ばれたキュレーターの遠藤水城、音楽家の田中悠美子と藤堂彰宏、美術作家の田添かおり、写真家の山本奈那などの渡航・滞在費用に充当される。

日本の現代演劇を紹介する 5 年プロジェクト「ジャパニーズ・シアター・ナウ」を 1998 年度から 2002 年度まで行なったニューヨークのジャパン・ソサエティーでは、2004 年度より第 2 期を開始。その 2 年度目には劇作家・演出家の平田オリザ率いる青年団による『ヤルタ会談』と『忠臣蔵OL 編』の 2 作品が、ノーマン(オクラホマ州)、ヒューストン(テキサス州)、ビクトリア(カナダ)、アーバナ(イリノイ州)、ポートランド(オレゴン州)、ヘンズステッド(ニューヨーク州)、およびニューヨークの 5 都市にて上演された。さらにツアーに先立つ 2 月にニューヨーク市立大学大学院などにおいて平田オリザによるトークイベントやディスカッションと対談が、またツアー中にも公演前のワークショップや終演後のトークセッションと質疑応答などが開催され、複合的な形で日本の現代演劇の紹介が行なわれた。

#### 芸術交流活動【非公募】

助成対象 2 件/助成総額 10,000,000 円

アジア・カルチュラル・カウンシル  
日米芸術交流プログラム(2006 年度の活動に充当)

2006 年 1 月 1 日 – 12 月 31 日  
アメリカ、日本  
7,000,000 円

ジャパン・ソサエティー  
ジャパニーズ・シアター・ナウ(第 2 期・2 年目)  
青年団『ヤルタ会談』

2006 年 3 月 6 日 – 3 月 25 日  
ノーマン、ヒューストン、ビクトリア、アーバナ、ポートランド、ヘンズステッド、ニューヨーク  
(University of Oklahoma, Zilka Hall, Intrepid Theatre, University of Illinois, Portland State University, Hofstra University, Japan Society)  
3,000,000 円

#### Artistic Exchange Project Program

**(Designated fund program)**

This program supports projects to introduce Japanese culture and encourage cultural exchange in solid and continuing partnership of the Saison Foundation and non-profit organizations outside of Japan.

Since 1989, the Saison Foundation has given support each year to the New York-based **Asian Cultural Council (ACC)** Japan–United States Arts Program, an interactive fellowship program for U.S. and Japanese artists, scholars, specialists, and organizations. In 2005, the grant awarded to the ACC program the previous year was appropriated to the travel expenses of five art professionals: Daisuke Muto, a dance critic; Tetsuro Koyano, a performer of Balinese mask dance; Yuki Okumura and Kenichi Yokono, visual artists; and Sohee Park, an actor. The grant made in 2005 will be used to cover the travel expenses of the 2006 grantees: curator Mizuki Endo, musicians Yumiko Tanaka and Akihiro Todo, visual artist Kaori Tazoe, and photographer Nana Yamamoto.

Japan Society, Inc. in New York began in 2004 the second series of *Japanese Theater NOW*, a program originally run for five years from 1998 to 2002. In the second year of the current series, Seinendan, the theater company led by playwright and director Oriza Hirata, carried out a tour of two of their repertoires *The Yalta Conference* and *Ronin Office Ladies (OL Chushingura)*

in Norman, Oklahoma; Houston, Texas; Victoria, Canada; Urbana, Illinois; Portland, Oregon; Hempstead, New York, and New York City. In prior to the tour, events such as discussion sessions with Oriza Hirata were held at the City University of New York Graduate Center in February 2006. During the tour, pre-performance workshops and post-performance question-and-answer sessions were held in order to introduce Japanese contemporary plays from multiple aspects.

#### Artistic Exchange Project Program [designated fund program]

2 Grantees/Total appropriations: ¥ 10,000,000

#### Asian Cultural Council ACC Japan-United States Arts Program Fellowships (for activities taking place during 2006)

January 1 – December 31, 2006

U.S., Japan

¥ 7,000,000

#### Japan Society, Inc.

#### Japanese Theater NOW II: Seinendan Theater in *The Yalta Conference*

March 6 – March 25, 2006

Norman, OK; Houston, TX; Victoria, BC; Urbana, IL; Portland, OR; Hempstead, NY; New York (University of Oklahoma, Zilka Hall, Intrepid Theatre, University of Illinois, Portland State University, Hofstra University, Japan Society)  
¥ 3,000,000

**特別助成(国際交流) [非公募]** 詩学社が行なっている『続・中国新世代詩人アンソロジー』の翻訳出版事業、および日独協会記念出版委員会による『Brückenbauer — 日独文化交流の架け橋を築いた人々』の出版事業を支援。前者のアンソロジーでは中国の現代詩人 18 名による 105 編の作品を収録し、2006 年中に完成する予定。後者の「日本におけるドイツ年」記念出版事業では、日独協会の月刊機関紙『Die Brücke (架け橋)』紙上で 1998 年 2 月から 2004 年 9 月の約 6 年半にわたり掲載された日独文化交流の功労者 53 名の活動を日独両国語でまとめたものである。

#### 特別助成(国際交流) [非公募]



ジャパン・ソサエティー「ジャパニーズ・シアター・ナウ(第2期・2年目) 青年団『ヤルタ会談』」2006年3月  
撮影:William W.Irwin  
Japanese Theater NOW II: Seinendan Theater in *The Yalta Conference*, organized by the Japan Society, Inc., March 2006. Photo: William W. Irwin

助成対象 2 件/助成総額 1,000,000 円

#### 詩学社

#### 続・中国新世代詩人アンソロジー

2005 年 4 月 1 日 – 2006 年 10 月 31 日

東京

500,000 円

#### 日独協会 記念出版委員会

日本におけるドイツ年記念出版「日独文化交流の架け橋を築いた人々」

2005 年 4 月 1 日 – 8 月 25 日

東京

500,000 円

#### Special Project Support Grant Program (international) [designated fund program]

This program supported a project by the publisher Shigaku-sha to translate and publish *Anthology of Contemporary Poetry by a New Generation of Chinese Poets II*, and a project by the Japan-German Society to publish *Brückenbauer: Bridge-builders between Japan and Germany*. The former is an anthology of 105 poems by eighteen Chinese contemporary poets and will be completed by the end of 2006. The latter, which was intended as a commemorative publication for the 'Deutschland in Japan 2005/2006' event, is a collection of articles in *Die Brücke*, the monthly newsletter of the Japan-German Society, from February 1998

to September 2004. The articles report in both Japanese and German the activities of fifty-three individuals who contributed greatly in the history of Japan-German cultural exchange.

#### Special Project Support Grant Program (international) [designated fund program]

2 Grantees/Total appropriations: ¥ 1,000,000

#### Japan-Germany Society

#### Memorial publication for "Japan-Germany Year 2005-06"

#### "Bridge-builders between Japan and Germany"

April 1 – August 25, 2005

Tokyo

¥ 500,000

#### Shigaku-sha

#### Anthology of Contemporary Poetry by a New Generation of Chinese Poets II

April 1, 2005 – October 31, 2006

Tokyo

¥ 500,000

# 森下スタジオのその他の利用者

(2005 年 6 月 1 日 - 2006 年 5 月 31 日)

Other users of Morishita Studio

利用団体名 2005 - May 31, 2006 利用日数 /

User name number of days

アंकリエイティブ An Creative	1
池内美奈子 Minako Ikeuchi	4
伊藤キム + 輝く未来 KIMITOH + the glorious future	4
演劇企画集団 THE・ガジラ PLAY PROJECT TEAM THE GAZIRA	5
K・ダンスオフィス K・DANCE OFFICE	7
コンタクト・インプロビゼーション・グループ C.I.co, Contact Improvisation Group C.I.co,	23
コンドルズ Condors	4
シベリア少女鉄道 Siberia Shjojo Tetsudo	6
デラルテ舍 Dell'Arte Company	6
パパ・タラフマラ Pappa TARAHUMARA	6
舞踊資源研究所 Dance Resources on Earth	9
水と油 Mizu to Abura	4



## 自主製作事業 Sponsorship Program

### ニュースレター『viewpoint』の刊行

セゾン文化財団のニュースレター『viewpoint』では、研究助成や海外留学、レジデンシーの成果など、当財団の助成・共催事業に関連した論考、レポートを幅広く掲載している。発行部数は毎月1,400部。芸術団体、自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンクタンク、研究者などに無料配布している。地域における舞台芸術の振興、海外でのアーツマネジメント留学・研修、国際交流事業の成果や森下スタジオで実施された事業など、当財団の助成・共催事業に関連した論考、レポートを幅広く掲載。

#### ■第32号(2005年8月発行)

- 新しい批評の場を求めて  
長谷部 浩(演劇評論家、東京芸術大学助教授)
- 集客から創客へ。  
衛 紀生(演劇評論家、県立宮城大学事業構想学部・大学院研究科客員教授)
- 「オリジナルのワークショップを創る研究会」の活動について  
吉野さつき(ワークショップ・コーディネーター)

#### ■第33号(2005年12月発行)

- 声と言葉と身体をつなげる旅路  
池内美奈子(ヴォイス・ティーチャー、新国立劇場演劇研究所講師)
- 「シリーズ：世界の助成・支援機関④」  
プリンセスグレース財団(USA)とプリンセスグレース賞について

クリスティーン・M. ジャンカテリーノ(プリンセスグレース財団(USA)助成プログラムコーディネーター)

- 瓶詰め状態の劇作家 —— アメリカにおける劇作家たちの状況  
アヤ・オガワ(劇作家、演出家、パフォーマー、ジャパン・ソサエティー舞台芸術部門プログラムオフィサー)

#### ■第34号(2006年3月発行)

- DANCE BOX: 過去 — 現在 — 未来  
大谷 燮(特定非営利活動法人ダンスボックス代表)
- 我が闘争〜うずめ劇場イン北九州  
ペーター・ゲスナー(演出家、うずめ劇場主宰)
- ダンスとメディア —— その関係性と必要性  
飯名尚人(Dance and Media Japan 代表)

### Publishing of viewpoint

The Saison Foundation's newsletter *viewpoint* carries a wide range of reports and essays, including the results of the Foundation's research grants and the outcome of projects supported by the Foundation. Fourteen hundred copies are published per issue, which are circulated free of charge to art organizations, local governments, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc.

#### ■ Issue No. 32 (August 2005)

- *Seeking for a New Place for Theater Criticism*

by Hiroshi Hasebe, Theater Critic; Assistant Professor, Tokyo National University of Fine Arts & Music

#### • *From Drawing Audiences to Creating Audiences*

by Kisei Ei, Theater Critic; Guest Professor, Graduate School of Department of Project Planning, Miyagi University

#### • *Activities of the Original Theatre Workshop Society*

by Satsuki Yoshino, Workshop Coordinator

#### ■ Issue No. 33 (December 2005)

#### • *A Journey Connecting Voice, Speech and Body*

by Minako Ikeuchi, Voice Teacher; Instructor, New National Theatre Dance Studio

#### • *Arts grant-making and supporting institutions in the world: 4. The Princess Grace Foundation-USA*

by Christine Giancattarino, Grants Coordinator, Princess Grace Foundation – USA

#### • *The Playwright in a Bottle*

by Aya Ogawa, Playwright, Director, Performer; Program Officer, Performing Arts Program, Japan Society

#### ■ Issue No. 34 (March 2006)

#### • *DANCE BOX: Past – Present – Future*

by Iku Otani, Director, Dance Box

#### • *Mein Kampf – Uzume Theater in Kitakyushu*

by Peter Goessner, Director, Artistic Director, Uzume Theater

#### • *Dance and Media – The Relationship and Interaction Between the Two*

by Naoto Iina, Director, Dance and Media Japan

## 共催事業(セゾンシアタープログラム) Co-sponsorship Programs (Saison Theater Program)

### 『Mobile —— アジアの移住労働者』

期日: 2006年1月9日ー1月21日

会場: 森下スタジオ

主催: ネセサリー・ステージ (シンガポール)

助成: アサヒビール芸術文化財団、東京都芸術文化発信事業助成、ナショナル・アーツ・カウンシル・シンガポール

協力: 世田谷パブリックシアター、演劇企画集団 THE・ガジラ、劇団黒 TENT、青年団

参加者: アルヴィン・タン(演出、シンガポール)、鐘下辰男(演出、日本)、ハレーン・シュヤーマ(脚本、シンガポール)、ナルモン・タマブルックサー(脚本/パフォーマン、タイ)、ブラディット・ブラサートン(脚本/パフォーマン、タイ)、ロデヤヴェラ(脚本/パフォーマン、フィリピン)、角館玲奈(俳優、日本)、片岡哲也(俳優、日本)、ピーター・エカソール(ドラマツルグ、オーストラリア)、アーリン・ディングラサン(俳優、フィリピン)、鈴木なお(通訳、日本) 恵志美奈子(プロジェクトアドミニストレーター、日本)

アジアの移住労働者をテーマとするシンガポール、フィリピン、タイ、日本の4カ国間事業。芸術監督はネセサリー・ステージシンガポールのアルヴィン・タン。日本からは劇作家として鐘下辰男、俳優2名が参加。日本にアジアから移住している関係者や NGO へのインタビュー、日本在住のフィリピン人による劇団テアトロ・カントとのワークショップ、テキスト作成、



ネセサリー・ステージ『Mobile ——アジアの移住労働者』パフォーマンス 森下スタジオ 2006年1月  
Performance of The Necessary Stage's Mobile – Asian Migrant Worker Project at Morishita Studio, January 2006.

ゲルスベルガー、音楽:ビーバー・グラッツ、演出補佐:阿部初美、演出助手:田中智佳、ドラマトゥルク補佐:高山明、照明:田島佐智子、音響:越川徹郎、舞台監督:清水義幸

出演:ヨシ茂田(フランス)、吉行和子、井出みな子(演劇集団円)、新井純、久保耐吉、谷川清美(演劇集団円)、笠木誠(第三エロチカ)、吉田智則、高橋和久(横浜ポートシアター)、水町レイコ(演劇集団円)、ともさと衣、田島俊弥(劇団青年座)

**日独共同創造演劇プロジェクト シアター Xプロデュース公演 鶴屋南北「四谷怪談」**

ドイツを代表する、現代演劇・オペラの演出家 ヨッシ・ヴィーラーと美術・衣裳の渡邊和子を迎え、オーディションによって選ばれた日本人俳優と共に現代の「四谷怪談」(鶴屋南北)を共同作業によって舞台化。05年12月にベルリン公演を実施。06年6月にウィーン、アムステルダム、ミュンヘンの各都市で上演。

Dates: January 9 – January 21, 2006

Venue: Morishita Studio

Support: Asahi Beer Arts Foundation, Tokyo Metropolitan Government, National Arts Council Singapore

Cooperation: Setagaya Public Theatre, Play Project Team THE GAZIRA, Black Tent Theater, Seinendan

Members: Alvin Tan (Director, Singapore), Tatsuo Kaneshita (Director, Japan), Haresh Sharma (Playwright, Singapore), Narumol Thammapruxsa (Playwright/Performer, Thailand), Pradit Prasarthong (Playwright/

The following two productions took place within the Season Theater Program in 2005 and try-out showings; and on the last day a work-in-progress performance and post-performance discussion were held at Morishita Studio. After the residency in Japan, *Mobile – Asian Migrant Worker Project* by The Necessary Stage (Singapore) continued in Singapore in prior to its world premiere at the Singapore Arts Festival in June 2006.

Dates: August 5 – August 14, 2005

Venue: Theatre X

Sponsors: Goethe-Institut Tokyo, Theatre X

Special Cooperation: The Japan Foundation  
Supported by: Agency for Cultural Affairs, Asahi Beer Arts Foundation, Society for Administration of Remuneration for Audio Home Recording (sarah).

Written by Namboku Tsuruya. Directed by Jossi Wieler. Stage Design and Costumes by Kazuko Watanabe. Dramaturgy and Script by Andreas Regelsberger. Music by Biber Gullatz. Assistant Directors: Hatsumi Abe and Chika Tanaka. Dramaturge Assistant: Akira Takayama. Stage lighting by Sachiko Tajima. Sound effects by Tetsuro Koshikawa. Stage Director: Yoshiyuki Shimizu.

The Cast: Yoshi Oida (France), Kazuko Yoshiyuki, Minako Ide (Theatrical group EN), Jun Arai, Chukichi Kubo, Kiyomi Tanigawa (Theatrical group EN), Makoto Kasagi (Daisan Erotica), Tomonori Yoshida, Kazuhisa Takahashi (Yokohama Boat Theatre), Reiko Mizumachi (Theatrical group EN), Koromo Tomosato, Toshiya Tajima (Seinenza Theater Company)

This was a contemporary theater version

of the ghost stories written by Namboku Tsuruya called *Yotsuya Kaidan* in which two major artists from Germany, Jossi Wieler, the famed director of contemporary theatre and opera, and Kazuko Watanabe, stage and costume designer, were invited to Japan to work with Japanese actors who were auditioned for the play. This project took place as part of the “Deutschland in Japan 2005/2006” cultural year and following the shows in Tokyo, the production toured Berlin in December 2005, and Vienna, Amsterdam, and Munich in June 2006.

**Yotsuya-Kaidan (Japanese-German collaborative theater project)**

期日: 2005年9月28日 – 10月8日

会場: パリ日本文化会館

主催: 日欧文化交流協会 (AJEEC)、財団法人セゾン現代美術館

2004年に設立されたフランスの社団法人の発足記念事業として、萩を拠点に活動する陶芸作家・三輪華子の初の海外展をパリ日本文化会館にて開催。展覧会では22点の作品が展示され、合計497名の来場者を迎えた。同展覧会は「日・EU市民交流年」、およびパリ市外国文化センター主催の「外国文化週間」の事業として認定され、特に後者においては関連媒体にて紹介された。

期日: 2005年12月8日 – 12月10日

会場: スーパー・デラックス、イタリア文化会館

主催: 「日欧現代詩フェスティバル in 東京」実行委員会、Circolo dei Viaggiatori nel Tempo、イタリア文化会館、EU・ジャパンフェスト日本委員会

欧州から14カ国・16名の詩人を招聘し、日本の詩人16名とともに、一般公開の朗読会やディスカッション等のプログラムを通して交流する事業。当財団では、その準備段階から、事業の運営を担当したEU・ジャパンフェスト日本委員会の事務局と協議を重ね、同フェス



日独共同創造演劇プロジェクト シアター X プロデュース公演 鶴屋南北『四谷怪談』  
2005年8月 撮影:宮内勝  
Theatre X Production of *Yotsuya-Kaidan* (Japan-Germany collaborative theater project) in Tokyo, August 2005. Photo: MIYAUCHI Katsu



日欧現代詩フェスティバル in 東京—耕された夢・住まわれた言葉— 2005年12月  
Euro-Japan Poetry Festival in Tokyo – Cultivated dream, inhabited words,  
December 2005.

## 後援・特別協力事業 Support Program/Special Co-operation Program

『三輪華子展—愛蓮—』の  
ための広報活動に協力した。

『三輪華子展—愛蓮—』の  
ための広報活動に協力した。

Dates: September 28 – October 8, 2005  
Place: Maison de la culture du Japon à Paris  
Organizers: Association Japon-Europe pour les Echanges Culturels (AJEEC), Sezon Museum of Modern Art

As an event to celebrate the founding of AJEEC, a French non-profit organization, in 2004, the first overseas exhibition of the Hagi-based ceramist Hanako Miwa was held at Maison de la culture du Japon à Paris. Twenty-two works were shown at the exhibition, which received 497 visitors. This

exhibition took place as an event of the 2005年「日欧現代詩フェスティバル in 東京—耕された夢・住まわれた言葉—」People Exchanges Year,” and also the “Week of Foreign Cultures in Paris,” organized by Forum des instituts culturels étrangers à Paris (FICEP), and was announced widely in the latter’s publicity materials.

Dates: December 8 – December 10, 2005  
Venues: Super Deluxe, Istituto Italiano di Cultura di Tokyo (Italian Cultural Institute in Tokyo)  
Organizers: “Euro-Japan Poetry Festival in Tokyo” Operating Committee, Circolo dei Viaggiatori nel Tempo, the Italian Cultural Institute, EU-Japan Fest Japan Committee

This was a European and Japanese poetry exchange project that was open to the public, with various events including readings and discussions by sixteen poets from fourteen European countries and sixteen Japanese poets. The Saison Foundation offered advice and assistance to the EU-Japan Fest Japan Committee, the main organizer of the poetry festival, at the preliminary stage of this project and also publicity support as well.

『Euro-Japan Poetry Festival in Tokyo - Cultivated dream, inhabited words』

事業日誌  
(2005 年 4 月 – 2006 年 3 月)

2005 年

- 6 月 7 日 理事会開催 (2004 年度事業および収支決算報告の件)  
評議員会開催 (2004 年度事業および収支決算報告の件)
- 6 月 15 日 文化庁に 2004 年度事業および収支決算報告書提出
- 8 月 5 日 セゾンシアタープログラム 東京ドイツ文化センター、シアター X 日独共同創造演劇プロジェクト シアター X プロデュース公演 鶴屋南北『四谷怪談』(8 月 14 日まで/シアター X にて)
- 8 月 20 日 『viewpoint』第 32 号発行
- 9 月 28 日 後援事業 日欧文化交流協会 (AJEEC)、財団法人セゾン現代美術館『三輪華子展 ― 愛蓮 ―』(10 月 8 日まで/パリ日本文化会館にて)
- 10 月 3 日 2006 年度《現代演劇・舞踊助成》募集開始
- 12 月 8 日 特別協力事業『日欧現代詩フェスティバル in 東京 ― 耕された夢住まわれた言葉 ―』(12 月 10 日まで/スーパーデラックス、イタリア文化会館にて)
- 12 月 10 日 『viewpoint』第 33 号発行
- 12 月 16 日 2006 年度《現代演劇・舞踊助成》申請締切

2006 年

- 1 月 9 日 セゾンシアタープログラム The Necessary Stage Ltd (シンガポール)『Mobile ― アジアの移住労働者』(1 月 21 日まで/森下スタジオにて)
- 2 月 20 日 2006 年度アドバイザー・ミーティング開催
- 3 月 13 日 理事会開催 (2006 年度事業計画および収支予算の件)  
評議員会開催 (2006 年度事業計画および収支予算の件)
- 3 月 14 日 2006 年度助成決定発表
- 3 月 25 日 『viewpoint』第 34 号発行
- 3 月 28 日 文化庁に 2006 年度事業計画書および収支予算書提出

Review of Activities  
(April 2005 - March 2006)

2005

- June 7 Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2004)
- June 15 Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2004)
- June 15 Report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2004 submitted to the Agency for Cultural Affairs
- August 5 Saison Theater Program: Theatre X Production of *Yotsuya-Kaidan* (Japanese-German collaborative theater project) at Theatre X, Tokyo (till August 14)
- August 20 Publication of *viewpoint* – the Foundation's newsletter – No. 32
- September 28 Exhibition of the works by contemporary Japanese ceramist Hanako Miwa entitled *Love Lotus*, organized by Association Japon-Europe pour les Echanges Culturels (AJEEC) and Sezon Museum of Modern Art, supported by The Saison Foundation, is held at Maison de la culture du Japon à Paris (till October 8)
- October 3 Application period for the 2006 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio Awards begins
- December 8 *Euro-Japan Poetry Festival in Tokyo – Cultivated dream, inhabited words* – begins (till December 10, at Super Deluxe, and the Italian Cultural Institute in Tokyo)
- December 10 Publication of *viewpoint* No. 33
- December 16 Application deadline for the 2006 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio Awards

2006

- January 9 Saison Theater Program: The Necessary Stage's *Mobile – Asian Migrant Worker Project* opens at Morishita Studio (till January 21)
- February 20 Advisory meeting for the 2006 Grant and Studio Awards held in Tokyo
- March 13 Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2006)  
Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2006)
- March 14 Announcement of 2006 Grant and Studio Awards
- March 25 Publication of *viewpoint* No. 34
- March 28 Plans and budget for fiscal year 2006 submitted to the Agency for Cultural Affairs

# 会計報告 Financial Report

単位: 円 / in yen

## 収支計算書

2005 年 4 月 1 日 - 2006 年 3 月 31 日

STATEMENT OF REVENUES  
AND EXPENSES from April 1,  
2005 to March 31, 2006

I. 収入の部		Revenues
1. 基本財産運用収入	Investment income from endowment	91,558,541
2. 運用財産運用収入	Investment income from operating funds	102,160,894
3. 寄付金収入	Contributions	5,000,000
4. 賃貸収入	Income from lease	10,168,222
5. 助成金収入	Grant for Joint Programs	1,000,000
6. その他の収入	Other income	1,895,197
7. 特定目的基金取崩収入	Transfer income from designated fund	1,400,000
当期収入合計	Net total revenue	213,182,854
前期繰越収支差額	Balance brought forward	156,844,050
収入合計	TOTAL REVENUE	370,026,904
II. 支出の部		Expenses
1. 事業費	Program services	151,173,859
（うち助成事業）	Grant programs	74,725,160
2. 管理費	Management and general	63,313,221
3. 借地権購入手付金支出	Leasehold deposit	20,000,000
当期支出合計	Total expenses	234,487,080
当期収支差額	FUND BALANCES	△ 21,304,226
次期繰越収支差額	BALANCE CARRIED FORWARD	135,539,824

## 貸借対照表

2006 年 3 月 31 日現在

BALANCE SHEET as of March  
31, 2006

I. 資産の部		Assets
1. 流動資産	Current assets	
現金預金	Cash	73,478,427
有価証券	Securities	1,448
未収収益等	Accrued revenue	63,113,945
流動資産合計	Total current assets	136,593,820
2. 固定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment	
土地	Land	2,254,915,150
有価証券	Securities	5,104,400,000
基本財産合計	Total endowment fund	7,359,315,150
特定目的資産	Designated fund	308,201,876
その他の固定資産	Other fixed assets	1,823,264,015
固定資産合計	Total fixed assets	9,490,781,041
資産合計	TOTAL ASSETS	9,627,374,861
II. 負債の部		Liabilities
負債合計	TOTAL LIABILITIES	19,103,996
III. 正味財産の部		Net Assets
正味財産	Net assets	9,608,270,865
（うち基本金）	Endowment fund	7,359,315,150
（うち当期正味財産減少額）	Decline of assets	22,800,713
負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	9,627,374,861

# 資金助成の概況

1987-2005 年

SUMMARY OF GRANTS  
from 1987 to 2005

分野/ Category	年度/ Year	申請件数/ Number of applications	助成件数/ Number of grants	助成金額 (円) Grants in yen
現代演劇・舞踊助成/ Contemporary Theater and Dance Program Grants	1987-01	2,304	523	1,507,378,000
	2002	219	45	77,500,000
	2003	147	40	56,000,000
	2004	162	47	54,420,000
	2005	174	46	57,125,000
	累計/ Total	3,006	701	1,752,423,000
非公募助成/ Designated Fund Program Grants	1987-01		151	616,742,000
	2002		8	21,000,000
	2003		4	13,000,000
	2004		8	14,800,000
	2005		9	17,600,000
	累計/ Total		180	683,142,000
合計/ GRAND TOTAL			881	2,435,565,000

## 2005 年度《現代演劇・舞踊助成》プログラムの概況

Data on Contemporary Theater and Dance Programs in 2005

プログラム programs	国内プログラム National Programs				国際交流プログラム International Programs				合計 Total
	創造環境整備 Creative Environment Improvement Programs		芸術創造 Artistic Creativity Enhancement Programs		知的交流 Intellectual Exchange Program	芸術交流 Artistic Exchange Programs			
	ワークショップ、 会議・シンポジ ウム、研究 Workshops, Conferences and Symposia, and Commissioned Research Projects	アーツマネジメ ント留学・研修 Arts Management Study Program	芸術創造活動Ⅰ Artistic Creativity Enhancement ProgramⅠ	芸術創造活動Ⅱ Artistic Creativity Enhancement ProgramⅡ	知的交流活動 Intellectual Exchange Program	Ⅰ: プロジェクト 支援 (スタジオ 助成) Ⅰ: Creative Exchange Program (Studio Awards only)	Ⅱ: 継続プロジェ クト支援 Ⅱ: Creative Exchange Program – For Long-Term Projects	F: 日仏舞踊交流 F:	
		サバティカル (休暇・充電) Sabbatical Program	若手奨励助成 Incentive Aid to Young Artists						
申請件数 number of applications	41	2 8	81* 2	5**	7	10	11***	9	176
助成件数 number of awards	19	1 1	6* 2	5**	2	4	3***	3	46
助成金額 (円) grants in yen	12,050,000	1,400,000	18,000,000 325,000	15,000,000	1,550,000	—	7,400,000	1,400,000	57,125,000

\* うち継続 3 件/ Including three extended grants

\*\* うち継続 5 件/ Including five extended grants

\*\*\* うち継続 2 件/ Including two extended grants